

取扱説明書



保証書付



インバーター発電機

ガソリン×ガス
ハイブリッドタイプ

出荷前に動作点検を行っておりますため、
製品に残油が残っている場合があります。ご了承ください。

モデル

XYG2200i-BD

このたびは、本製品をお買い上げいただき、
誠にありがとうございます。

- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。
- 仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

安全のため、ご使用前に必ず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、十分にご理解のうえ、正しくご使用ください。

お読みになったあとは、いつでも参照できるよう大切に保管してください。



本製品は、ガソリンとLPG（液化石油ガス）の2種類の燃料に対応した「デュアルフェーエル インバーター発電機」です。どちらの燃料でも発電が可能です。

※2種類の燃料が同時に供給される状態（ガソリンコックが「ON」 [13ページ参照]、かつ燃料タンク内にガソリンが残っている場合）では、LPGガスを優先的に消費します。

LPGガスの残量がなくなると、自動的にガソリン燃料に切り替わり、エンジンの運転は継続されますが、切替の際に一時的にエンジンの回転が不安定になる場合があります。

目次



■	はじめに	P 04
	安全上のご注意.....	P 05
	ラベル.....	P 07
■	主要諸元	P 08
■	各部の名称	P 09
■	各部の取り扱い	P 11
■	デジタルディスプレイ	P 16
	インターフェース紹介.....	P 16
	エコモード切替方法.....	P 17
	周波数切替方法.....	P 18
	メンテナンスと故障の表現.....	P 19
■	使用前準備	P 21
	エンジンオイルの給油.....	P 21
	無鉛レギュラーガソリンの場合.....	P 23
	カセットボンベCB缶の場合.....	P 25
	カセットボンベOD缶の場合.....	P 28
	LPガスの場合.....	P 29
■	使用方法	P 31
	エンジンのかけ方(ガソリンの場合).....	P 31
	エンジンのかけ方(LPGガスの場合).....	P 33
	電気の取り出し方.....	P 34
	発電機エンジンの止め方と後片付け.....	P 37

■	保守と点検	P 38
	定期点検表.....	P 38
	点検と整備.....	P 39
	・ エンジンオイルの交換.....	P 39
	・ ガソリンの抜き取り.....	P 41
	・ 点火プラグの点検・交換.....	P 42
	・ エアクリーナーの清掃.....	P 44
	・ 燃料タンクストレーナーの清掃.....	P 45
	・ 排気口の清掃.....	P 45
	運搬する場合.....	P 46
	長期保管.....	P 47
■	故障と対処	P 48
	エンジンがかからない.....	P 48
	リコイルスタータークリップが引けない.....	P 48
	エンジンが数分動いた後止まる.....	P 49
	排気口(マフラー)から白煙が出る.....	P 49
	電気が取り出せない.....	P 49
	電気製品の出力が足りない.....	P 49
	ディスプレイの故障コード.....	P 50
■	配線図	P 52
■	保証規約	P 54
■	修理サービス規約	P 55
■	カスタマサービスセンター	P 56
■	保証書	P 57

はじめに

ご使用の前に本書の注意事項をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 本書に示す注意事項は、製品を正しくお使いいただき、ご使用者および周囲の方々への危険や損害を未然に防止するためのもので、表示内容を見逃して誤った使い方をした場合に生じる危険・損害の程度を「警告」「注意」「禁止」「指示」に区分して説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。
- ご不明な点や不具合等がございましたら、お早めにお買い上げの販売店、または「カスタマーサービスセンター」へご相談ください。なお、本機を転売・譲渡される場合は、本書を必ず製品に添付してください。

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

 警告	誤った取り扱いにより、死亡または重傷などを負う可能性があります。
 注意	誤った取り扱いにより、けがや財産への損害が生じる可能性があります。
 禁止	してはいけない内容です。
 指示	必ず守っていただく内容です。

はじめに

安全上のご注意



警告

- この発電機は車載用としては製造していませんので車載したまま使用しないでください。
- 医療機器への使用、キャンピングカー搭載での使用はしないでください。思わぬ事故を起こす可能性があります。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- 取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。守らないと異常作動してケガをする、また本機や本機に接続された電気製品が故障する原因となります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。
- また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 疲れているときや病気のとき、酒気を帯びた状態や薬物・医薬品を摂取した状態で運転しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすおそれがあります。
- 運転時、給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや屋外でも換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。一酸化炭素中毒で死亡するおそれがあります。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- エンジンを始動させる前に必ず点検内容に従ってください。(詳しくは「使用前の準備」参照)
- 雨や水で濡れている状態で本機や本機に接続された電気製品を使用したり、濡れた手で操作したりすると、感電の原因になります。
- 正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
- 未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- 点検整備を行う場合は、エンジンスイッチをオフにしてください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ガソリンや燃料などの引火性液体を吸い込まないでください。火災や爆発を起こし、重傷を負う危険性があります。ガスを吸い込んだり、目に入ったりした場合は、ただちに医師の診察を受けてください。
- 砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しないでください。エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れないでください。感電の原因となります。
- エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けしないでください。火災の原因となります。
- 使用時には、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。
- 並列運転端子には専用コード以外は絶対に接続しないでください。感電の原因となります。
- 給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
- 燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- 給油時、燃料タンクの給油上限位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。
- 本機から離れるときは、必ずエンジンを止め、コンセントから電気製品のプラグを外してください。プラグを外さないと、いたずらなどで電気製品が動き、思わぬ事故が起きる原因となります。
- 点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料蒸気へ引火する恐れがあります。
- 使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- 本機を水洗いしないでください。守らないと電装部品の事故やショートが起きる原因となります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因となります。
- 使い切っていないカセットボンベ(燃料)は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。
- エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。
- 長期保管前には本機内の燃料を確実に抜き、火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管してください。

はじめに

安全上のご注意



注意



禁止

- 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらないでください。守らないとヤケドの原因となります。
- 本機の回転部に棒や針金を入れない守らないとケガの原因となります。守らないと火災の原因となります。
- 交換用カセットボンベは炎天下に置かないでください。
- カセットボンベに付属するキャップを取付けて、40°C以下の日陰で保管してください。
- 始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れないでください。
- カセットボンベを捨てるときは、カセットボンベ内のガスを完全に使い切ってから、お住まいの地域の取り決めにしたがって捨ててください。ガスが残ったまま捨てるとゴミ収集車の火災の原因となるおそれがあります。
- シリーズ以外の発電機と並列運転しないでください。



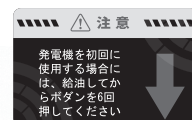
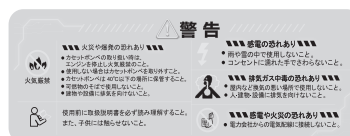
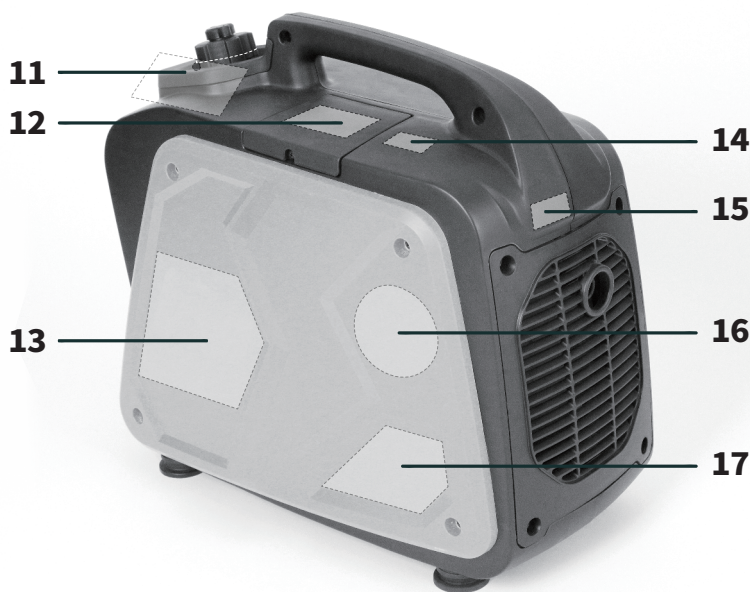
指示

- 延長コードは、電気製品に合った十分な太さのものを使用してください。(詳しくは「電気の取り出し方」参照)
- 燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- 運転中に移動しないでください。
- 長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- 液状のガスが皮膚に付着した場合は、凍傷の恐れがあります。燃料もれが無いかよく確認してください。
- 子供の手の届かない安全な場所に保管してください。
- 運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

はじめに

ラベル

※ラベル添付位置は、実際と異なる場合があります。



主要諸元

※予告なく仕様を変更する場合があります。また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。
ご了承ください。

型 番	XYG2200i-BD	
タ イ プ	デュアルフェーエル インバーター発電機	
相 数	単相	
エ ン ジ ン	型 式	空冷4ストロークOHVエンジン
	回 転 速 度	4500rpm
	排 気 量	114cc
	馬 力	3
	エンジンオイル	SAE10W-30/10W-40API分類SE級以上
	オイル容量	0.52L
	点火プラグ	A5RTC (TORCH)
	始動方式	リコイルスタート
使 用 燃 料 ① (無鉛レギュラーガソリン)	タンク容量	4.1L
	連続運転時間 (100%負荷)	約3.2H
使 用 燃 料 ② (ガ ス)	使用燃料種類	カセットボンベ/アウトドア缶/LPガス
	連続運転時間 (100%負荷)	約1H(カセットボンベx3本)
交 流 A C	最大出力	2.2kVA
	定格出力	1.8kVA
	定格電流	18A
	定格電圧	100V
直 流 D C	定格電流	5A
	定格電圧	12V
直 流 U S B	USB-A	5V-3A/9V-2A/12V-1.5A
	TYPE-C	5V-3A/9V-3A/12V-2.5A
定 格 周 波 数		50/60Hz切替式
使 用 環 境 温 度		-5～40℃(ガソリン)/5～40℃(ガス)
騒 音 レ ベ ル		71dB(測定面の半径4m範囲)
乾 燥 重 量		19.0kg
製 品 寸 法		525x282x457mm

各部の名称

※本取扱説明書に掲載されている写真はプロトタイプのため、本製品と仕様が異なる場合があります。

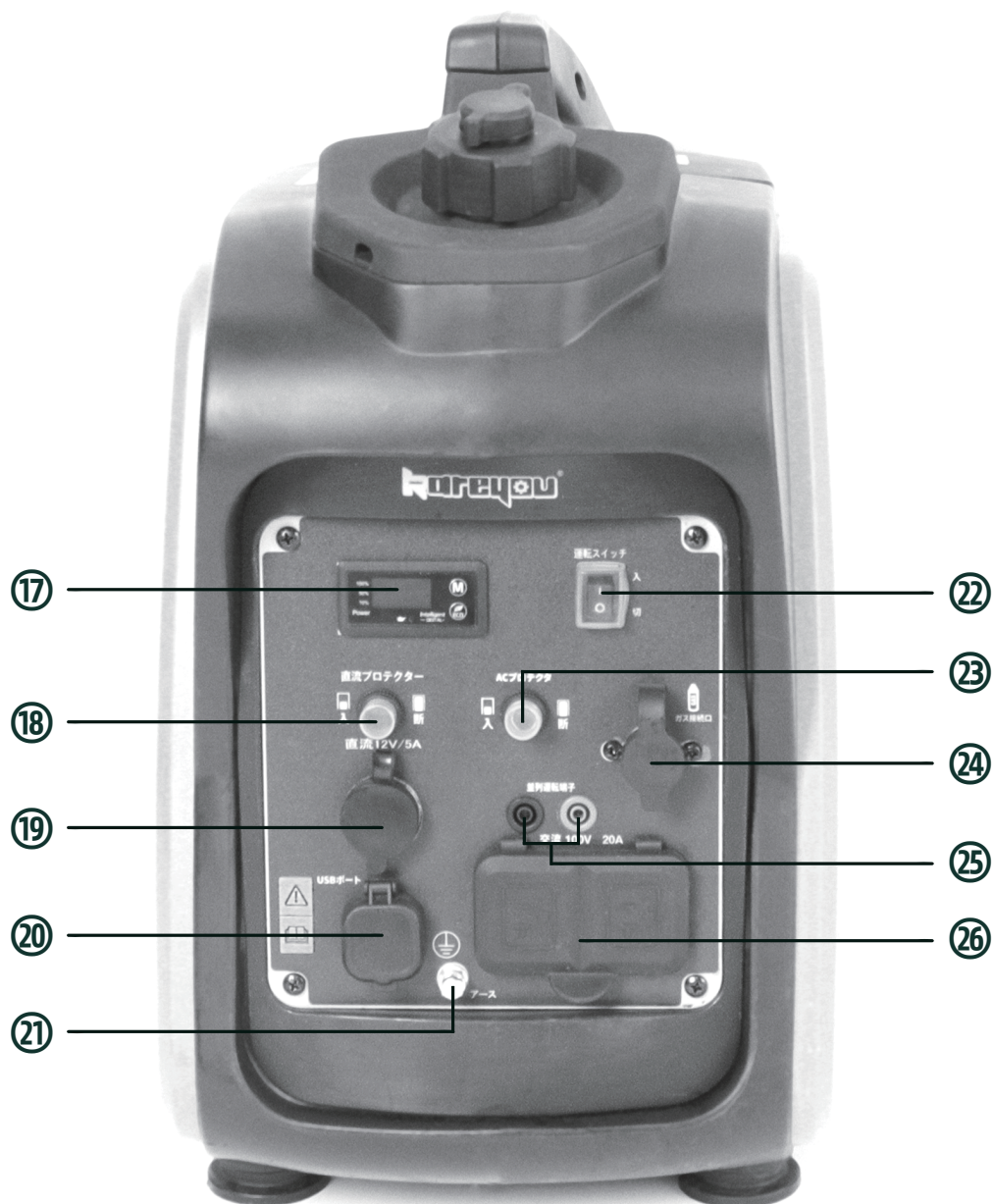


- ① チョークレバー [P11参照]
- ② ハンドル
- ③ 燃料タンク
- ④ プライマーバルブ [P11参照]
- ⑤ リコイルスターターグリップ [P12参照]
- ⑥ 排気口 [P11参照]
- ⑦ 排気口カバー
- ⑧ 燃料タンクキャップつまみ [P11参照]

- ⑨ 点火プラグメンテナンスカバー
- ⑩ 防振スタンド
- ⑪ キャブレター（気化器） [P12参照]
- ⑫ エアクリーナー [P13参照]
- ⑬ エンジンオイル注入口 [P13参照]
- ⑭ 燃料排出用パイプ [P12参照]
- ⑮ ガソリンコック [P12参照]
- ⑯ 点火プラグキャップ/点火プラグ [P13参照]

各部の名称

コントロールパネル



- ①⑦ マルチメーター(エコモード/周波数切替) [P17～18参照]
- ①⑧ 直流DCプロテクター [P14参照]
- ①⑨ シガーソケット [P14参照]
- ②⑩ USB出力端子(USB-A x 1口/TYPER-C x 1口)
- ②⑪ アース端子 [P15参照]

- ②② 運転スイッチ
- ②③ 交流ACプロテクター [P14参照]
- ②④ ガス接続口 [P15参照]
- ②⑤ 並列運転端子(交流用) [P15参照]
- ②⑥ 交流ACコンセントx 2口 (100V/20A) [P14参照]

各部の取り扱い

チョークレバー



始動させる際に、エンジンに入る空気量を調整するための操作レバーです。燃料と空気の混合比を変えることで、始動性を高めます。

- **エンジンが冷えている場合/寒冷時期:**

冷えた状態では混合気を濃くする必要があるため、エンジン始動時はチョークレバーを「始動」の位置にしてください。

- **エンジンが暖まった後の始動/暑い時期:**

空気の密度が低く、混合気が自然に濃くなります。そのため、エンジン始動時はチョークレバーを直接「運転」の位置にしてください。

エンジン始動が容易に行えるよう、あらかじめ、キャブレターへガソリン燃料を送るための手動ポンプです。

プライマーバルブ



- 通常の始動時は、プライマーバルブを3～5回程度押してください。
- 本機を初めて使用する場合や、長期間使用していなかった場合は、6～15回程度押して、ガソリンを十分にキャブレターへ送ってください。

バルブ内にガソリンが見える状態になるまで押すのが目安です。これにより、エンジンが始動しやすくなります。

排気口



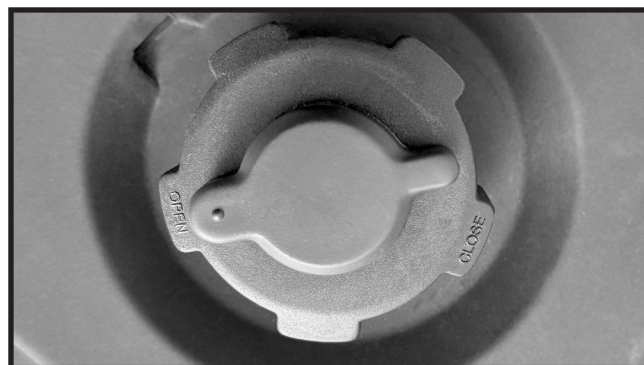
排気口は、エンジンから排出された排気ガスが外部へ放出される出口です。



注意

やけどの恐れがありますので、運転中および運転直後は触れないようご注意ください。

燃料タンクキャップつまみ



燃料タンク内と外気との通気を制御するための開閉装置です。発電機を運転・停止するときに操作します。

操作は確実に「OPEN(開)」、「CLOSE(閉)」の位置にしてください。

- 「OPEN(開)」: 発電機運転時
- 「CLOSE(閉)」: 停止、運搬、保管時

各部の取り扱い

リコイルスタータークリップ



エンジンを始動させるときに使用します。

⚠ 注意

- ・ 運転中に外したり、無理に引っ張らないでください。エンジンの突然停止や故障の原因になります。
- ・ 周囲に引っかかって紐が破損しないように、まっすぐ引いてください。
- ・ クリップおよび紐の部分に、亀裂・ほつれ・摩耗等の損傷がある場合は新しい部品に交換してください。

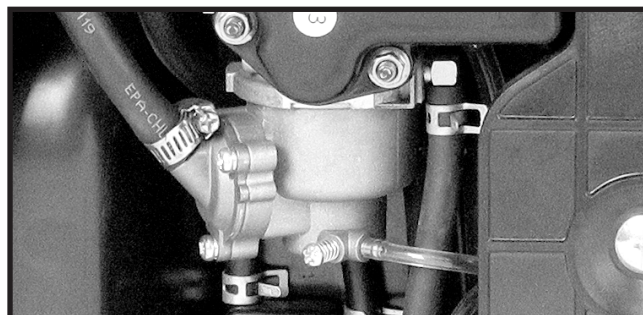
ガソリンコック



ガソリンの供給経路を開閉するためのバルブです。
使用燃料種類に応じて、以下のように操作してください。

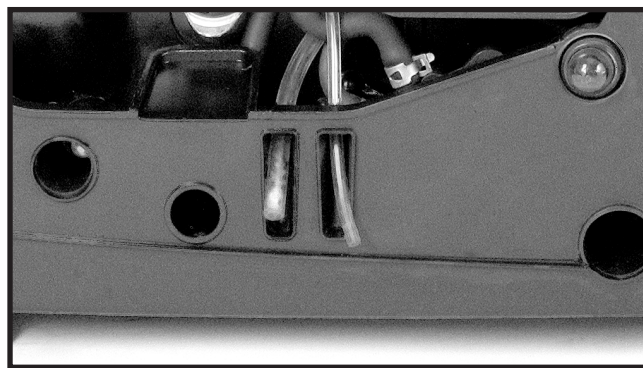
- ・ 「**ON(開)**」: ガソリン燃料供給経路が開通し、エンジンの始動が可能な状態です。ガソリンを使用する際はこの位置にしてください。
- ・ 「**OFF(閉)**」: ガソリン燃料供給経路が遮断されます。保管時や運搬時、またはガス接続を使用する場合はこの位置にしてください。

キャブレター (気化器)



ガソリンや液化石油ガスなどの燃料を空気と適切に混合し、燃焼機関に供給する装置です。適切な空燃比を維持することで、安定したエンジンの始動・運転を実現します。

燃料排出用パイプ (ガソリン)



燃料タンクやキャブレター内に残った古いガソリンや不要な燃料を安全に排出するための装置です。

長期間使用しない場合や、燃料の入れ替え、メンテナンス時にご使用ください。

(P41~42「キャブレターからの抜き取り」参照)

⚠ 注意

- ・ 排出、交換作業は必ずエンジン停止後、十分に冷却された状態で行ってください。
- ・ 周囲に火気のない、風通しのよい屋外で作業してください。
- ・ 廃オイル、廃ガソリンは環境に配慮し、必ず適切な方法で処理してください。自治体の指示に従って廃棄をお願いします。

各部の取り扱い

エンジンオイル注入口



エンジンオイルを入れるときに、オイルキャップを外して、指定のエンジンオイルを注入してください。

(P21~22「エンジンオイルの給油」参照)

初回運転前および毎回使用前に、必ずオイル量を点検してください。また、定期的にオイルの交換を行ってください。

(P39~40「エンジンオイルの交換」参照)

エアクリーナー

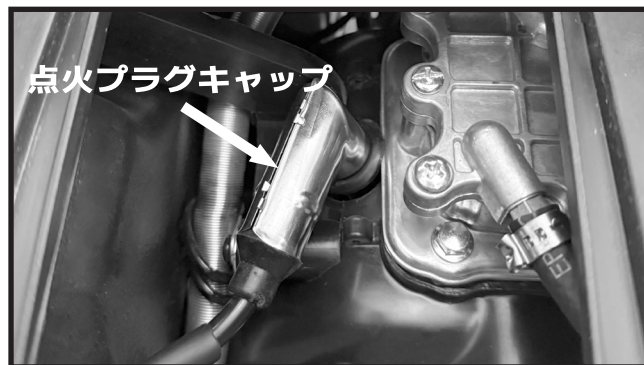


エンジン内部に取り込まれる空気からホコリやゴミを除去し、きれいな空気を供給するための装置です。

⚠ 注意

- エアクリーナーエレメントは定期的に清掃または交換してください。特に粉塵の多い場所での使用時は、点検頻度を増やしてください。
- エレメントの整備不良により、キャブレターやエンジン内部に異物が入り、故障の原因となります。

点火プラグ



点火プラグは、予混合燃焼式内燃機関において混合気に点火する装置です。



点火プラグキャップを取り外すと、その下にエンジン部品である点火プラグがあります。

点火プラグの取り付けや取り外しを行う際は、付属品の点火プラグレンチをご使用ください。

(P42~43「点火プラグの点検・交換」参照)

⚠ 注意

- 点火プラグの交換や点検は、必ずエンジン停止・冷却後に行ってください。
- プラグまわりにゴミや砂が付着した状態で取り付けると、異物が内部に入る恐れがあります。清掃してから取り付け作業を行ってください。
- 指定の点火プラグ品番は「A5RTC (TORCH)」です。仕様の異なるプラグを使用した場合、エンジンの始動不良、出力低下、燃費の悪化、またはエンジン本体の損傷を引き起こす恐れがあります。

各部の取り扱い

直流 / 交流プロテクター

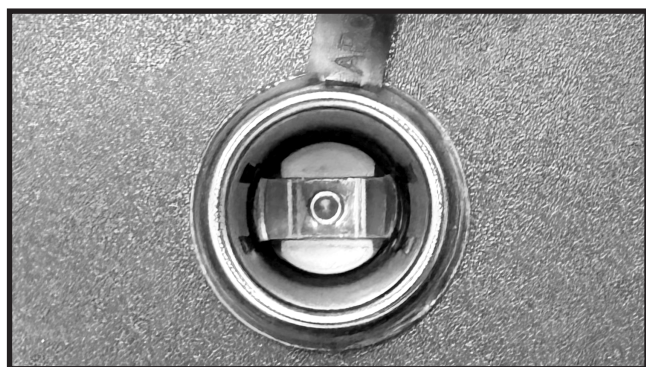


直流DC/交流AC出力コンセントの温度・負荷が、プロテクタ(過熱・過負荷保護装置)で設定された上限を超えた場合、AC/DCプロテクタボタンが自動的に飛び出して「切」になり、電気が供給されなくなります。

接続機器に異常がないこと、また最大出力を超える使用をしていないことを確認したうえで、プロテクタボタンを「入」の位置に戻し、再度運転を行ってください。

※異常が繰り返し発生する場合は、接続している機器に過負荷や故障がある可能性があります。

シガーソケット (12V)



車載バッテリー充電器や車載用冷蔵庫など、直流12V仕様の車載用電気製品に電源を供給するための出力端子です。使用機器の電圧が12V出力の仕様範囲内であることをご確認のうえご使用ください。

USB出力端子



本機にはUSB-AおよびType-Cの出力ポートを搭載しています。これらのポートを使用して、スマートフォン、タブレットなどの直流対応USB機器への充電が可能です。

交流ACコンセント (100V 2口)



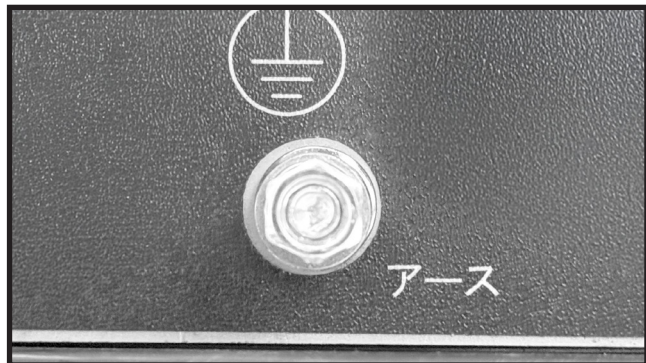
交流100Vの日常電気製品に電力を供給することができます。ご使用の際は、接続する機器の合計消費電力が、本機の定格出力を超えないことを必ずご確認ください。過負荷状態で使用すると、安全装置が作動し出力が停止する場合があります。

⚠ 注意

- 接続中はプラグが確実に差し込まれていることを確認してください。接触不良による過熱・発火のおそれがあります。
- 雨天や湿気の多い場所での使用は避けてください。感電やショートのおそれがあります。

各部の取り扱い

アース端子

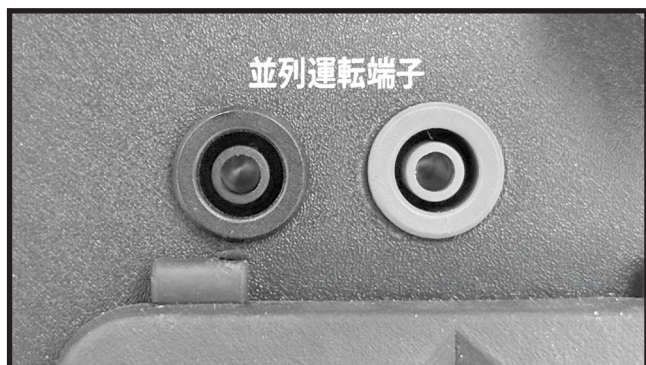


感電防止のためにアース線を接続する端子です。本機に接続する電気製品がアース付きプラグを使用している場合は、本機も必ず接地（アース）を行ってください。※¹

⚠ 注意

アース端子からの接地工事は必ず電気工事士の資格を有する人が実施してください。※¹

並列運転端子（交流用）



同一仕様の発電機2台を並列運転ボックス／並列運転コード（別売）で接続し、出力増強を行うための接続端子です。（P36参照）

接続には、必ず専用の「並列運転ボックス（別売部品）」、または「並列運転コード（別売部品）」をご使用ください。部品は、お買い上げの販売店にご注文ください。

※他社製発電機・異なる機種との接続は不可です。
（XYGシリーズの「XYG2200i-BD＜本製品＞」と「XYG1200i-BT」の並列運転が可能です。）

⚠ 注意

誤った接続や不適合な部品を使用すると、機器の破損や重大な事故につながる恐れがあります。

ガス接続口



付属の外付けソケットを本機のガス接続口に取り付けることで、LPGガスを燃料として使用し、発電することができます。LPGガスボンベの取り付け方法については、「使用前の準備」（P25～30）をご参照ください。

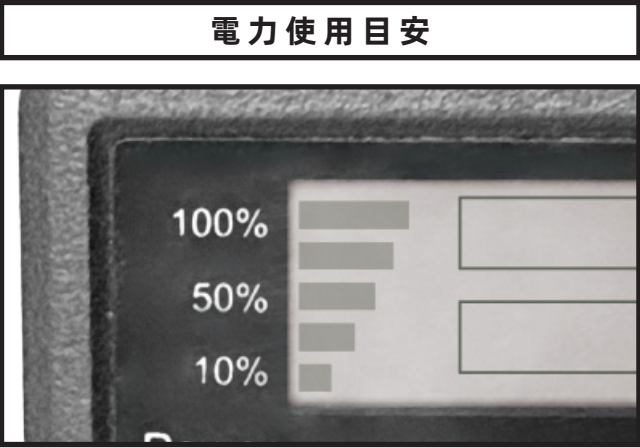
⚠ 注意

- 接続作業は必ずエンジン停止後に行ってください。
- ガス漏れの有無を確認したうえで、始動してください。
- LPGガスを使用する場合は、ガソリンコックを「OFF」にしてください。

デジタルディスプレイ

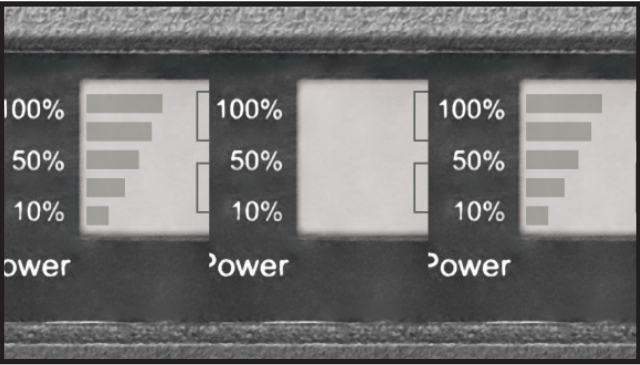
インターフェース紹介

※本書に記載されているディスプレイの表示内容は、実際の製品とは一部異なる場合があります。

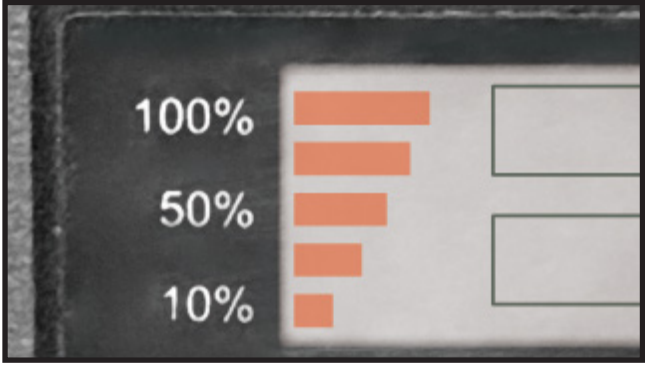


電気の取り出し状況目安を確認できます。

状態	電気の取り出し状況
第5段階	最大の約97.5%以上の使用
第4段階	最大の約77.5%～97.5%使用
第3段階	最大の約47.5%～77.5%使用
第2段階	最大の約27.5%～47.5%使用
第1段階	最大の約7.5%～27.5%使用
表示しない	7.5%未満の使用



出力電力が定格出力を超えると、出力状態灯が点滅して表示されます。



最大出力を超えると、出力状態灯が赤く点灯し、10秒後に運転中の機械が自動的に停止して故障画面に切り替わります。(P20「故障警告」参照)

インターフェースの表示内容

エンジン始動後、ディスプレイには運転状況に関する内容が表示されます。



ディスプレイの表示内容の切り替え方法：「M(メニュー)」ボタンを短く一回押すごとに、『出力』、『運転時間』、『電圧・周波数』の3つの表示画面が順番に切り替わります。

デジタルディスプレイ



順番	表示内容 (リアルタイム更新)
一行目	出力電力目安
二行目	電気使用のアンペア数目安



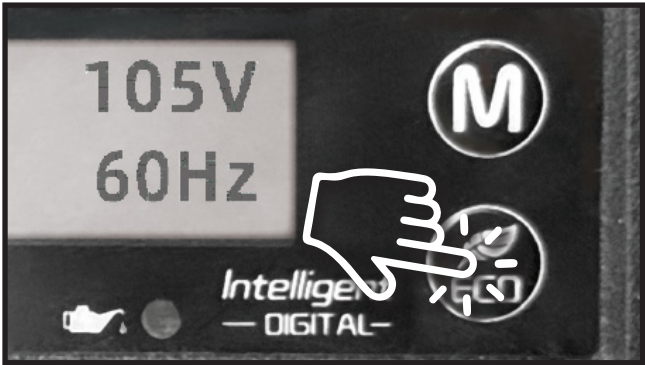
順番	表示内容 (リアルタイム更新)
一行目	電圧状況目安
二行目	電源周波数



順番	表示内容 (リアルタイム更新)
一行目	積算運転時間 (H)
二行目	単回積算運転時間 (Min)

エコモード切替方法

エコモードは、接続負荷(使用電力量)に応じてエンジン回転数を自動制御し、燃料消費および運転騒音の低減を図る機能です。



①「ECO(エコ)」ボタンを軽く一回押します。



②ディスプレイ画面が緑色に変わると、エコモードになります。

③再度「ECO(エコ)」ボタンを軽く押すと、エコモードが解除されます。

⚠ 注意

- 大きな起動電流が必要なデバイスにご使用する場合、必ずエコスイッチをOFFにしてください。
- デジタルディスプレイの操作は、必ず発電機が運転している状態で行ってください。
- ディスプレイの表示内容は参考用です。実際の出力や周波数は機器の使用状況により変動することがありますので、目安としてご利用ください。

デジタルディスプレイ

周波数切替方法

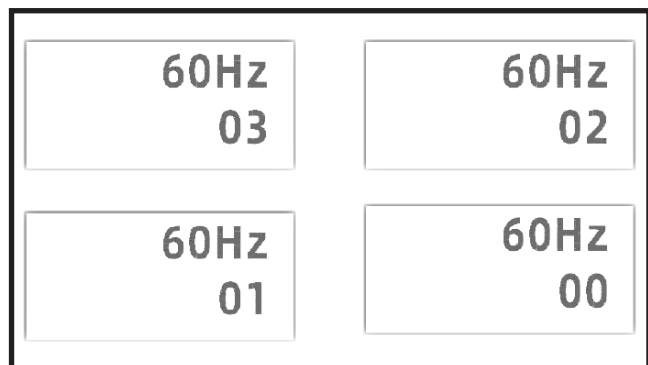
周波数切替により、出力周波数を「50Hz」または「60Hz」に切り替えます。

電気製品プラグを挿し込み前に、接続したい電気機器およびご使用地域に合わせて周波数を設定します。

※周波数が異なる状態で使用すると、接続機器の故障や誤動作の原因となる場合があります。



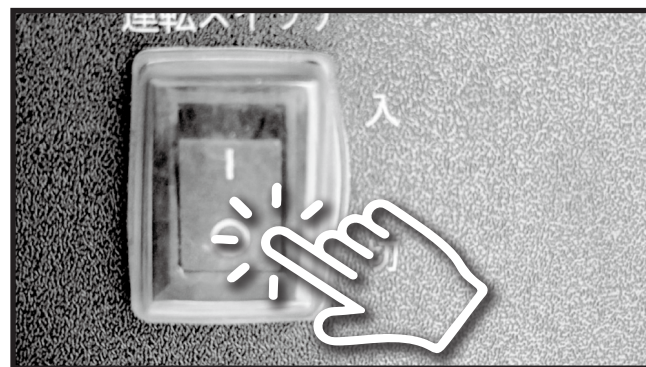
①エンジンを始動して、「ECO(エコ)」ボタンを 3 秒以上の長押しします。



②ディスプレイが『電圧・周波数』画面に切り替え、3秒間のカウントダウンが始まります。



③カウントダウン終了後、「50Hz」または「60Hz」の目標周波数が点滅表示され、設定が完了します。



④ 発電機の運転を停止し、再度始動してください。
(P31～33「エンジンのかけ方」参照)

これで周波数の切り替え手順は完了です。

⚠ 注意

- 周波数(50Hz/60Hz)の切り替え設定が完了した後は、必ず一度発電機を停止し、再始動してから電気製品をご使用ください。設定反映前に機器を接続すると、誤作動や故障の原因となる場合があります。
- 周波数の設定は、使用する地域や接続機器の仕様に合わせて正しく行ってください。誤った設定で使用する、接続機器の損傷や性能不良につながる恐れがあります。
- 電気製品の周波数が不明な場合は、機器の取扱説明書、もしくはメーカーへ確認します。

デジタルディスプレイ

メンテナンスと故障表現

エンジンオイル警告灯



状況①: エンジンオイル量が不足すると、点灯します。

- エンジンオイル量を点検し、補給してください。

(P39～40「エンジンオイルの交換」参照)

状況②: オイルのセンサー回路が故障すると、点灯します。

- 運転をただちに停止してください。
- オイルの状態、汚れや劣化がないか確認してください。必要に応じてオイル交換を行ってください。
- 製品および配線の確認を行ってください。回路やセンサーに異常が見られる場合は、「カスタマサービスセンター」もしくは販売店までご連絡ください。

⚠ 注意

- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れすぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。
- オイルを定期的に交換してください。オイル汚れなどにより、オイルアラート機構が誤作動する場合があります。エンジンの焼き付きや故障の原因となりますので、定期点検表のとおりオイル交換を行ってください。

メンテナンス警告



メンテナンス期間が至ると、自動的に「メンテナンス警告」表示画面に切り替わります。



- その際、「M」ボタンを長押しすると、6秒間のカウントダウンが表示され、カウント終了後に通常の表示画面に戻ります。

初回の「メンテナンス警告」は運転20時間後に表示され、エンジンオイルの交換を提示します。

通常の表示画面に戻る以後、以降50時間ごとに「メンテナンス警告」が表示されます。

デジタルディスプレイ

故障警告



- ・ 異常が発生した場合、自動的にエンジンが停止し、ディスプレイは故障表示画面に切り替わります。
- ・ 故障コードは左から順に「第1位」「第2位」「第3位」「第4位」の4桁で構成されており、各桁が示す数字によって異常内容を表します。
- ・ 故障表示画面には、赤色の警告アイコン、リセットの案内、および4桁の故障コードが表示されます。
- ・ 各桁の数字が「0」の場合は「異常なし」を意味し、それ以外の数字の内容については、下の表を参照ください。

故障コード	第一位	第二位	第三位	第四位
1	電流異常	UVLO保護 低電圧誤動作防止	過速度異常	OCP 過電流保護機能
2	電圧異常	配電線の電圧 過電圧保護	瞬時電流検知異常	過負荷異常
3	/	配電線の電圧 低電圧保護	並列出力異常	IGBT温度過昇異常
4	/	/	/	電気回路ショート

※「M」ボタンを一回押すと、インバーター出力がリセットされ、通常の表示画面に戻ります。

※P50～51「故障コード処理対処」ご参照ください。

⚠ 注意

- ・ 故障コードは、故障内容を4つの桁に分けて示しており、それぞれの桁が異なる異常を表しています。
- ・ 異常内容によっては、自動的にエンジンが停止し、出力が遮断されることがあります。故障のまま使用を継続すると、機器の破損や感電などの重大な事故につながる恐れがあります。
- ・ 故障コードの内容が不明な場合や自力で解決できない場合は、無理に操作を続けず、メーカーもしくは販売店までにご相談ください。

使用前の準備

!

警告

⊘

禁止

- エンジンオイルが給油されていない状態、またガソリン燃料給されていない場合/ガス接続されていない場合は、始動しないでください。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままの状態ではエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時、喫煙などの火気を発生させないでください。
- 傾斜地で使用しないでください。本機は必ず平坦で安定した場所に設置してください。

!

指示

- オイルや燃料を補給する時は必ずエンジンを停止し、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料をこぼさないように注意してください。必ず規定量以内で給油してください。
- 工場出荷時には一切のオイルが給油されていません。ご使用前に、必ず給油してください。
- 建物および他の設置物から1m以上離れてください。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてください。

エンジンオイルの給油

取り扱いのポイント

※エンジンの運転には、エンジンオイルが必要です。本機は出荷時にエンジンオイルが給油されておりませんので、必ずご使用前に給油してください。

※本機の水平を保ったまま給油してください。

推奨オイル	SAE10W-30/SAE10W-40 4サイクル用エンジンオイルSE級以上
オイル容量	0.52L

- 入れにくい場合は、オイルじょうごを用意してください。
- 初回は、運転開始後1か月または運転時間20時間のいずれか早い時点でエンジンオイルを交換してください。交換を行わないと、潤滑性能の低下により焼付き等の重大な損傷が発生するおそれがあります。
- 交換作業中にこぼれたエンジンオイルは、必ずきれいな布などで拭き取ってください。放置すると、火災や機器の劣化の原因となるおそれがあります。

- 2回目以降の交換は、「定期点検表」(P38参照)に従って実施してください。交換手順は「エンジンオイルの交換」(P39~40参照)をご確認ください。

!

注意

- 本機を傾けた状態で給油しないでください。機体が傾いたまま給油すると、適正な油量管理ができず、規定量を超えて充填されるおそれがあります。
- 規定量以上のオイルが入れて始動すると、エンジンから白煙が出たり、排気口が詰まり、エンジン停止などの不具合を招き、故障の原因となります。

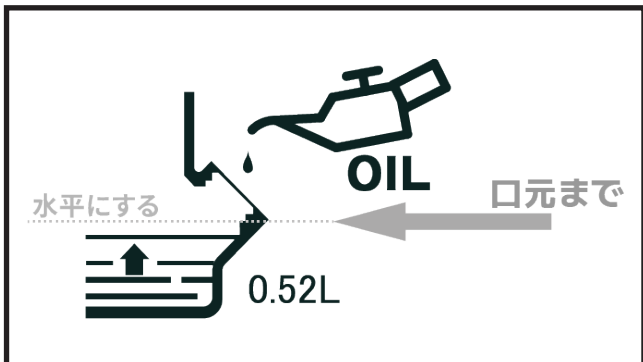
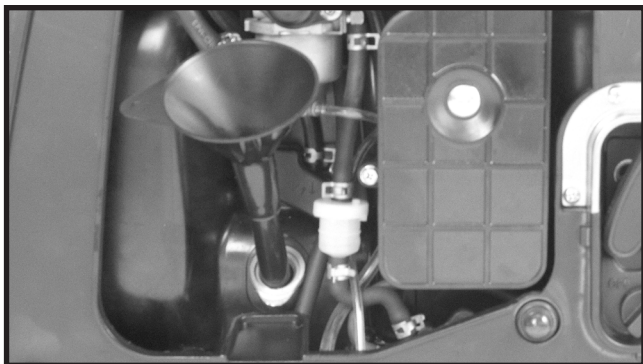
給油

①本機側面のカバーのネジ（4か所）をゆるめ、カバーを取り外します。

使用前の準備

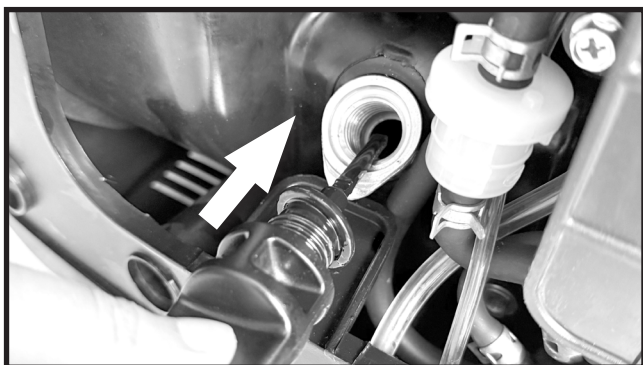


②オイル給油キャップを外します。

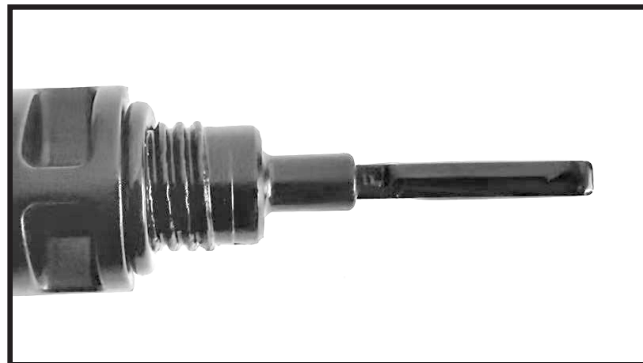
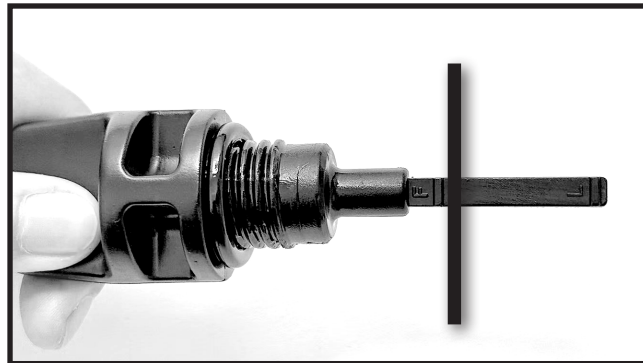


③付属のじょうごを用意して、本機を水平にして給油口の口元まで給油します。

※こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。放置すると発煙・発火の原因となります。

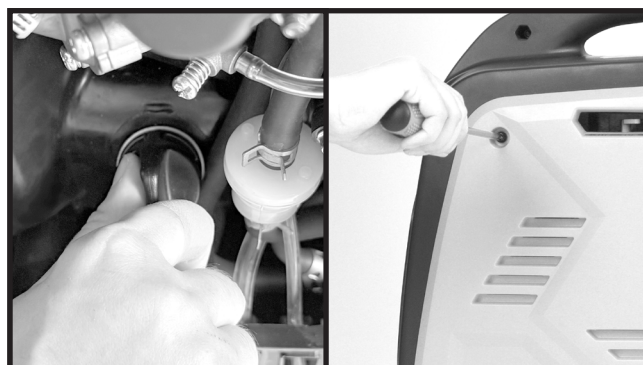


④オイル給油キャップを一旦締め付け、再度外します。



⑤オイルがオイルゲージの「F(FULL)」の位置まであるか点検します。オイル量は必ず所定範囲内に調整してください。オイル量が少ない時は、新しいオイルを補給します。

- ・「**規定量超過**」の場合：入れすぎの状態では動すると、白煙の発生、リコイルスターターが重くて、引けないなど不具合の原因となります。
- ・「**規定量未満**」の場合：エンジンがかからない、エンジンが焼き付く、黒煙の発生などのトラブルにつながる可能性があります。



⑥給油したらオイル給油キャップを確実に締め付けます。機械のカバーを取り付けます。

使用前の準備

警告



禁止

- 軽油、灯油、粗悪なガソリンなどを給油したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。エンジンの故障や性能低下の原因となります。
- 古いガソリンや長期間保管されたガソリンは使用しないでください。エンジンの始動不良や不調の原因になります。
- ガソリンを一時的に保管・運搬する際は、消防法に適合した専用の携行缶をご使用ください。特に、ペットボトルなどの容器への保管は絶対に行わないでください。ペットボトル内にガソリンを入れると、容器の成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。



指示

- 毎回ご使用前には、必ず燃料タンク内のガソリン残量を確認してください。
- 給油を行う際は、必ず燃料フィルターをご使用ください。異物混入を防ぎます。
- 燃料を長期間保管する場合は、タンクから燃料を抜き取り、換気の良い場所で保管してください。気温変化や湿気によって燃料が劣化し、始動不良やエンジン内部の腐食を引き起こすおそれがあります。
- 夜間や暗い場所で給油を行う場合は、必ず懐中電灯など安全な光源を使用してください。火気のあるランタンやマッチ、ライターなどは絶対に使用しないでください。

無鉛レギュラーガソリンの場合

取り扱いのポイント

※本機は出荷時に燃料は入っておりませんので、必ずご使用前に給油してください。

※給油作業を行うとき、必ず本機を水平にしてください。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
タンク容量	4.1L

- 給油は、換気の良い屋外で行ってください。
- 2回目以降の使用時にタンク内にガソリンが残っている場合でも、劣化している可能性があります。品質劣化による不具合を防ぐためにも、30日に1回を目安に、新しいガソリンに交換してください。
- 給油作業中は、タバコの火やその他の火気を近づけないでください。また、金属部品に触れるなどして、身体に帯電した静電気を確実に除去したうえで給油作業を行ってください。



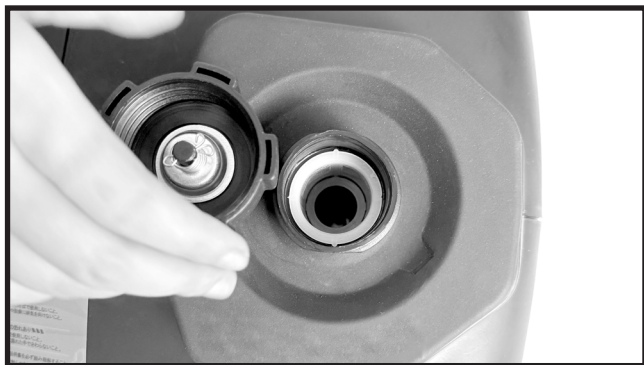
注意

- 必ず無鉛レギュラーガソリンをご使用ください。高濃度アルコールを含む燃料や、有機溶剤を含む燃料を使用すると、エンジンおよび燃料系統を損傷する原因となります。
- エンジンが熱い状態では、絶対に給油しないでください。エンジン停止直後など、本体が高温のときに給油を行うと、引火・火災の原因になるおそれがあります。
- 水・雪・ホコリ・ゴミなどが燃料タンク内に入らないよう十分にご注意ください。

ガソリンの給油



使用前の準備



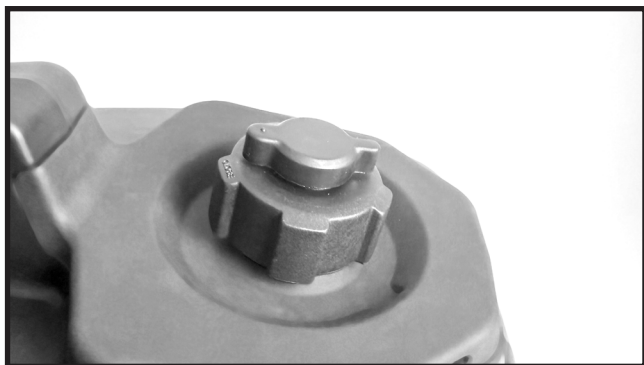
①燃料タンクキャップを外します。



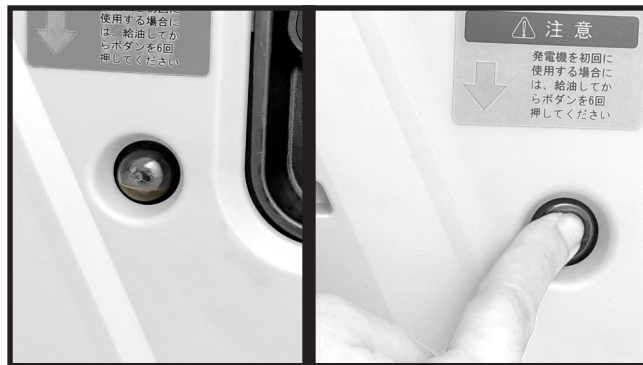
②ガソリンを赤レベルまで給油してください。※¹

※燃料は必ずストレーナーの赤レベル以下まで給油してください。燃料が漏れるおそれがあります。

※ガソリンの残量が少ない場合は、エンジンが始動しないことがあります。使用前には、燃料残量を十分に確認してください。



③給油したら燃料キャップを確実に締め付けます。



④プライマーバルブを6回程度、バルブ内にガソリンが見える状態になるまで押してください。

※本機をはじめて使用する場合、ガソリンをタンクからキャブレーターに送るために、プライマーバルブを6~20回程度連続して押してください。

⚠ 注意

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを使用してください。他の燃料を使用するとエンジン故障の原因になります。
- 給油時、給油口に必ずストレーナー装着してください。※¹
- 燃料がこぼれた時は、きれいな柔らかな布で完全に拭き取ってください。
- 万が一、燃料を誤って飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、目に入った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。
- 衣類に燃料が付着した場合は、石鹸と水で直ちに洗い、汚染された衣類はすぐに着替えてください。

使用前の準備

⚠ 注意

🚫 禁止

- 排気ガスには有害成分が含まれています。テント内、トンネル内などの換気の悪い場所では、一酸化炭素中毒による死亡事故の恐れがありますので、絶対に使用しないでください。
- 本機の周囲に予備のカセットボンベなどの可燃物を置かないでください。また、本機にカバーや箱、シートなどをかぶせた状態で使用しないでください。
- 排気口は動植物、テント、ビニールハウス、家屋などに向けないでください。
- カセットボンベ/LPガス(以下:LPGガス)の取り付け・取り外し時には、タバコ、焚火など火気厳禁です。また、身体に帯電した静電気は事前に放電してください。カセットボンベが爆発し、死亡や重傷を伴う重大な事故を引き起こす危険があります。
- 万が一、周囲にガスが充満している場合は、換気扇や電動工具、ヒーターなど火花が出る機器の使用は厳禁です。
- LPGガスの交換は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- LPGガスは、本機に正しく確実にセットしてください。不完全に取り付けた状態ではガス漏れを起こす恐れがあり、非常に危険です。

❗ 指示

- LPGガスは、炎天下の車内・直射日光の当たる場所・火気のそば・高温(40℃以上)多湿の場所では保管しないでください。保管は必ず、風通しが良く湿気の少ない場所で行ってください。
- LPGガスは、サビや変形のないもの、製造日から7年以内のものをご使用ください。
- 必ず風通しの良い屋外で使用してください。
- 平坦で燃えにくく、安定した場所に本機を水平に設置してください。
- 建物や壁、その他の設置物からは1m以上離して設置してください。排気口および吸気口は、風通しの良い広い方向へ向けてください。
- 子どもやペットが近づかないよう、隔離措置を設置してください。
- カセットボンベ/LPガスに記載されている警告表示や注意事項をよく読み、内容を十分理解したうえでご使用ください。
- LPGガスを取り付ける際は、差し込み口にゴミや異物が付着していないことを必ず確認してください。
- 本機を長時間使用しない場合は、カセットボンベを取り外して保管してください。

カセットボンベCB缶の場合

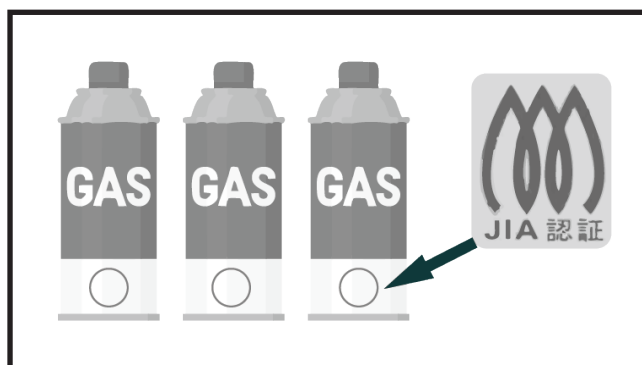
取り付け前のポイント



※ 付属品

付属のカセットボンベ外付け用ソケットを使用することで、

最大3本のカセットボンベを同時に接続・供給することができます。



- JIA認証表示のあるカセットボンベをご使用ください。

使用前の準備



- 標準使用本数は3本です。
※より安定した運転を行う場合は、推奨使用本数として5本のカセットボンベをご使用ください。
その際は、別売の外付け用ソケットをご購入のうえ、接続してください。
- JIA認証表示があっても、高い環境温度に、熱いところに近づかないでください。

※梱包内容ではありません



- カセットボンベをよく振り、残量を確認してください。振った際に「サラサラ」という音がしない場合は、残量が少ないため、新しいボンベと交換してください。

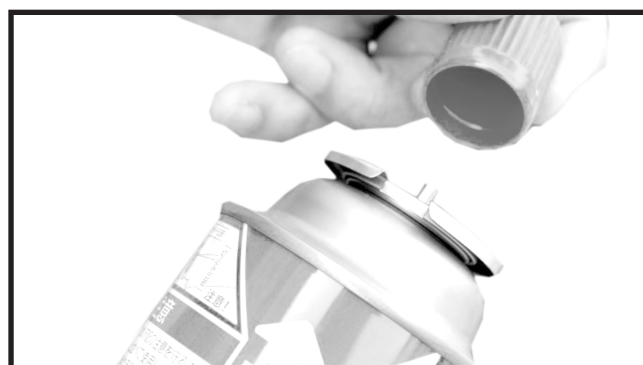
CB缶の取り付けと発電機のかけ方



- ① 付属品の外付け用ソケットを組み合わせます。接続が緩んでいるとガス漏れなどの危険がありますので、確実に締め付けてください。



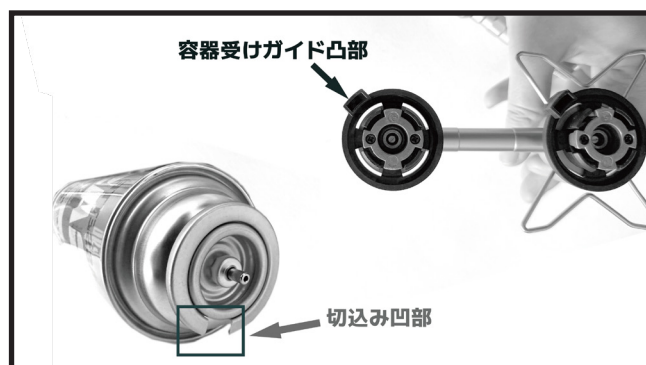
- ② 外付け用ソケットのオス口を、発電機パネル上のガス接続口(メス口)に差し込み、回して確実に固定してください。



- ③ カセットボンベの容器キャップを外し、紛失しないよう保管します。

※容器キャップは、カセットボンベの保管時に必要となるため、必ずなくさないよう保管してください。

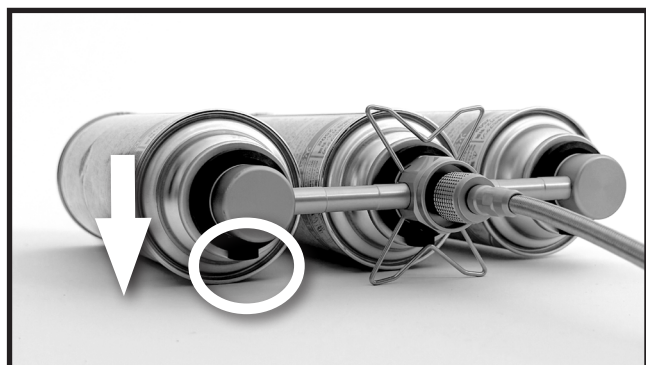
使用前の準備



④ 容器受けのガイド凸部と、カセットポンベの切込み凹部の位置を合わせて差し込みます。

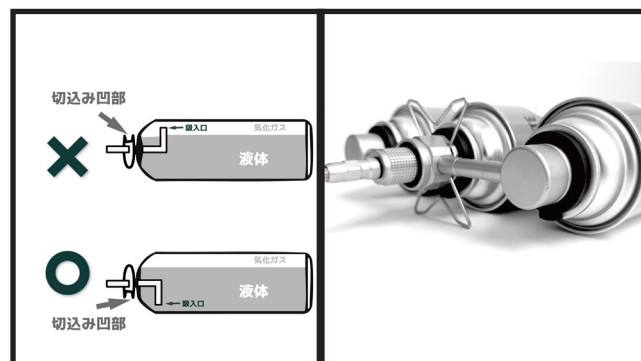


⑤ そのまま押し込みながら、時計回りに回して固定しっかりと装着してください。



⑥ 容器受けのガイド凸部を地面(真下)に向けて置きます。

CB缶設置の注意事項



本機は、液体ガス(生ガス)を気化させてエンジンに供給するためのキャブレターを備えています。

カセットポンベを最後まで確実に使い切るためには、外付け用ソケットで本機に接続する際、カセットポンベの切り込みを必ず下向きにして取り付けてください。

使用前の準備

カセットボンベOD缶の場合

取り付け前のポイント

※梱包品ではありません



- ・ OD缶(アウトドア缶)には、使用する気温に応じて混合ガスの比率が異なる複数の種類が用意されています。
- ・ 冬季や標高の高い山岳地帯など、低温環境での使用を想定している場合は、OD缶タイプの使用を推奨いたします。
- ・ 気化性能が安定し、快適かつ安全な運転が可能となります。



- ・ JIA認証表示のあるカセットボンベをご使用ください。
- ・ 使用の前に、カセットボンベを振り、残量を確認してください。

OD缶の取り付けと発電機のかけ方



①付属品の外付け用ソケットの線の部分を使用してください。



②外付け用ソケットのオス口を、発電機パネル上のガス接続口(メス口)に差し込み、回して確実に固定してください。

③カセットボンベの容器キャップを外し、紛失しないよう保管します。



④外付け用ソケットのメス口を、OD缶のオス口にねじ込み、確実に固定してください。

※接続が緩いとガス漏れの原因となるため、しっかりと締め付けていることを確認してください。

使用前の準備

LPガスの場合

取り付け前のポイント



※梱包品ではありません



※梱包品ではありません

LPガスを接続場合、専用のガス栓と適合するLPガス用ゴム管または専用ホースを使用してください。

- ・ ゴム管は、過度に長いものを使用しないでください。また、ひび割れや焼き焦げなどが発生しているゴム管は使用しないでください。

※ゴム管からのガスもれの点検は、石けん水を塗り泡が出るかで分かります。(泡が出た場合は、すぐに新しいゴム管に取替えてください。)また点検後はきれいに拭き取ってください。

- ・ ガスをお使いになるときは、ガス栓を全開にしてお使いください。また、発電機停止後お使いにならない場合は、ガス栓、器具栓が完全に閉めてください。※¹

⚠ 注意

- ・ LPガスとガス栓の接続は、事前に専門業者またはLPガス供給業者の指導のもとで行ってください。
- ・ 本説明書ではガス栓製品の詳細な取り付け方法は記載しておりません。必要に応じてガス栓の取扱説明書をご参照ください。※¹

LPガスと発電機のかけ方



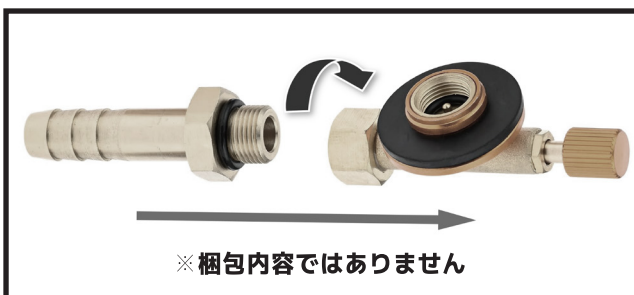
※別売り内容

- ①別売りの外付け用ソケット(双方向オス口)を用意します。



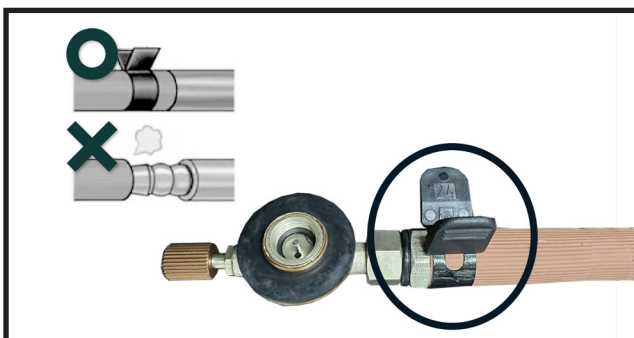
オス口

- ②外付け用ソケットのオス口を、発電機パネル上のガス接続口(メス口)に差し込み、回して確実に固定してください。



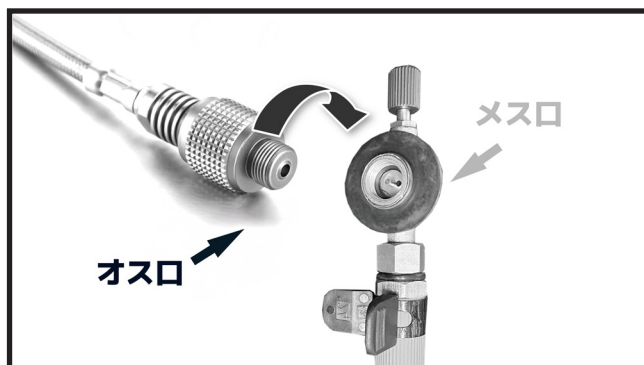
※梱包内容ではありません

- ③事前にカセットガス用レギュレーターを用意の上、回して組み合わせます。



- ④ゴム管とレギュレーターをしっかりと固定します。ホースバンドを使って、確実に締めます。

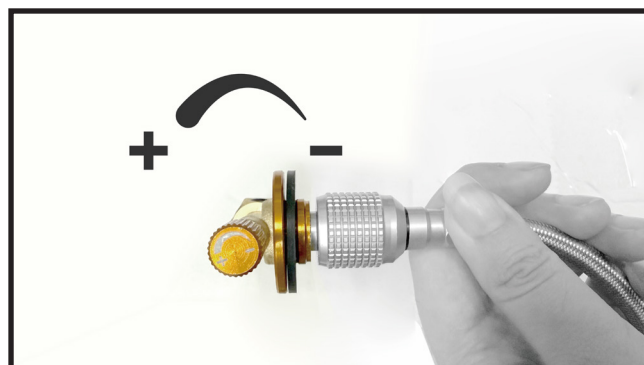
使用前の準備



⑤ 外付けソケットのもう一端のオス口を、レギュレーター
のメス口に接続してください。



⑥ ゴム管のもう一端をガス栓に取り付けます。
コックと器具の赤線まで確実に差し込み、両方の差し込み
口にホースバンドを取り付けます。



レギュレーターは、ガスの流量を調整することができます。

LP ガスの 注意 事項

① ゴムホースが無理に曲がっていないか、テーブルの足など
でつぶれていないか確認して下さい。

② 人の行き来する場所でゴムホースを通さないで下さい。
引っかけ、ガス漏れや容器の転倒、ガス器具の落下など
の原因となります。

③ ガス漏れが疑われる場合は、直ちに使用を中止してくだ
さい。「シュー」という音やガスの臭いが持続する場合は、
ガス漏れの可能性があります。運転中に異常を感じた場合
は、直ちに運転を停止し、ガス缶を取り外してください。
取り外したガス缶には、以下のの方法で安全に保管してく
ださい：

- 必ず容器キャップを取り付ける
 - 調整器のコックおよび容器バルブを完全に閉める
- 安全のため、その後の使用は必ず点検・確認を行ってから
再開してください。

使用方法

警告

禁止

- ・ 換気や風通しが不十分な場所や、排気ガスがこもる場所では、絶対にエンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒や死亡事故の原因となるおそれがあります。
- ・ エンジンを始動する前に、電気製品を接続しないでください。始動時の電圧変動により、機器の誤作動や故障の原因となる可能性があります。
- ・ 本機が移動・横倒し・落下・破損などしないよう、安定した平坦な場所に設置してご使用ください。特に横倒しの状態で運転を行うと、エンジンが始動しなくなるなど、故障の原因となります。
- ・ 本機を傾けないでください。オイル漏れや故障の原因となります。
- ・ 排気口やエンジン各部に触れたり、予備のLPGボンベ（カセットボンベCB缶/OD缶/LPGガス）を近づけたりしないでください。ヤケド、またはLPGボンベが爆発するおそれがあります。
- ・ 運転中は、始動グリップを絶対に引かないでください。エンジンに悪影響を与える可能性があります。

指示

- ・ エンジンオイルを充填しないと、本機は始動できません。ご使用前に、必ず規定量のオイルを補給してください。
- ・ 運転を開始する前に、LPGガス接続部にゆるみや漏れ、破損がないかを必ず点検してください。また、各接続部が確実に締め付けられていることを確認してください。
- ・ ガス漏れの恐れがある場合は、絶対に運転を行わず、ただちに使用を中止し点検・修理を行ってください。
- ・ リコイルスターターグリップは、勢いよく引いてください。始動時の回転が速くなると、点火火花エンジンがかかります。エンジンの回転が遅いと、点火火花が飛ばず、エンジンがかからないことがあります。
- ・ リコイルスターターハンドルを数回引いてもエンジンが始動しない場合は、約20分間、発電機を換気の良い場所に置き、再度始動をお試しください。
- ・ 気温が10℃以下の場合は、3～5分程度暖機運転を行ってください。

エンジンのかけ方（ガソリンの場合）



※エンジンを始動する前に、必ずプライマーバルブを数回連続して押し、バルブ内にガソリンが見える状態にしてください。

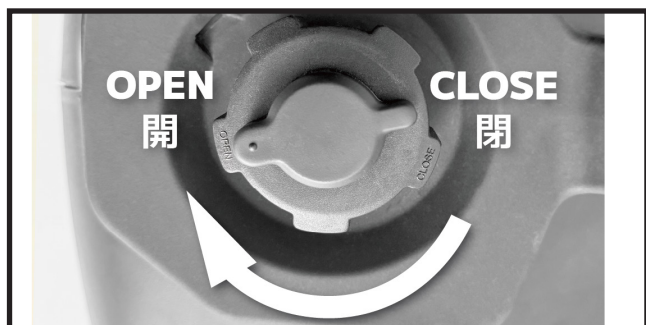
燃料がキャブレターまで確実に送られることで、エンジンが始動しやすくなります。



①ガソリンコックを「ON」の位置にします。

- ・ 燃料タンクからキャブレター（気化器）へガソリンが供給されるようになります。
- ・ ガソリンの供給がなければ、エンジン内部での燃焼が行えず、エンジンは始動できません。

使用方法



②燃料タンクキャップつまみのクリップを「OPEN」の位置にします。



③エンジンの運転スイッチを「入」にします。



④チョークレバーを「始動(チョーク)」の位置にします。

※エンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接「運転」の位置にします。

チョークは空気の流入を制限し、燃料が濃い状態になります。

- ・ 燃料が気化しやすくなり、エンジンがかかりやすくなります。
- ・ 特にエンジンが冷えているときと、外気温が低いときは操作が必要です。



⑤リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなったところで勢よく引いてエンジンを始動させます。引っ張ったら、グリップを手を添えてゆっくりと元に戻してください。※¹

⚠ 注意

- ・ 引く勢いが足りないと、始動時エンジンの回転が遅く、点火・燃焼が成立しないため、エンジンがかからないことがあります。
- ・ 運転中はグリップを引かないでください。エンジンが破損する原因となります。
- ・ グリップは、必ず指定された方向に引いてください。無理な方向への操作は、ロープの寿命を著しく縮めます。
- ・ 引っ張ったら、直接クリップを放すとスタータ機構の損傷原因となります。※¹



⑥グリップを3~5回操作してもエンジンが始動しない場合は、チョークレバーを「運転」の位置に戻し、リコイルスターターグリップを2~3回再度操作して、再始動を試してください。

⑦エンジン始動後、回転が安定したら、チョークレバーを必ず「運転」は位置にします。

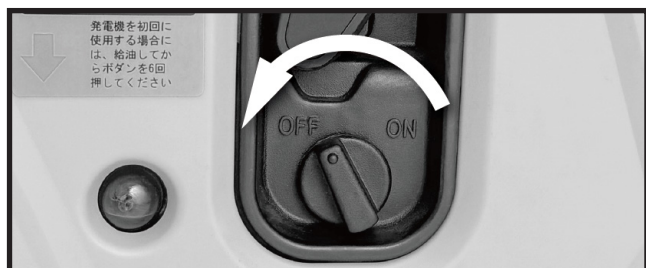


⑧デジタルディスプレイの画面が正常に表示されているかを確認します。

使用方法

エンジンのかけ方（LPGガスの場合）

※始動前に、必ず接続部分が締まっているか確認し、接続線やゴム管漏れ、損傷などの状況が有無を点検します。
ガスの漏れることが大変危険です。



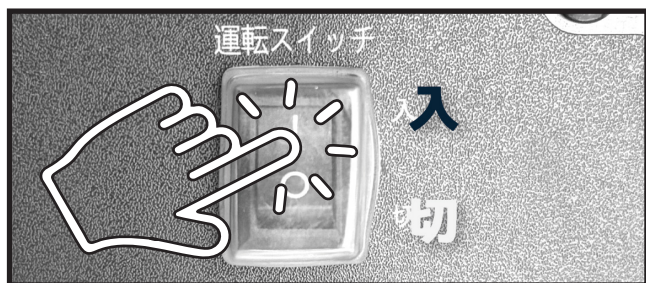
①ガソリンcockを「OFF」の位置にします。

※ガソリン燃料通路を閉めて、ガスのキャブレターへガスが供給されるようになります。



②LPGガス缶（カセットボンベCB缶/OD缶/LPガスボンベ）を専用の外付け用ソケットにしっかり接続し、本機の「ガス接続口」へ取り付けます。

（P25～30「LPGガスボンベの取り付け方法」参照）



③エンジンの運転スイッチを「入」にします。



④チョークレバーを「始動（チョーク）」の位置にします。

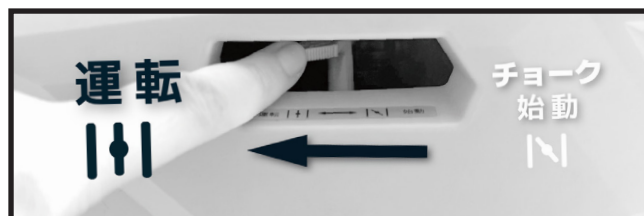
※エンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接「運転」の位置にします。



⑤リコイルグリップを軽く引き出し、重くなったところで勢いよく引いてエンジンを始動させます。引っ張ったら、グリップを手を添えてゆっくりと元に戻してください。※¹

⚠ 注意

- 引く勢いが足りないと、始動時エンジンの回転が遅く、点火・燃焼が成立しないため、エンジンがかからないことがあります。
- 運転中はグリップを引かないでください。エンジンが破損する原因となります。
- グリップは、必ず指定された方向に引いてください。無理な方向への操作は、ロープの寿命を著しく縮めます。
- 引っ張ったら、直接グリップを放すとスタータ機構の損傷原因となります。※¹



⑥グリップを3～5回操作してもエンジンが始動しない場合は、チョークレバーを「運転」の位置に戻し、リコイルスタータグリップを2～3回再度操作して、再始動を試してください。

⑦エンジン始動後、回転が安定したら、チョークレバーを必ず「運転」は位置にします。

⑧デジタルディスプレイの画面が正常に表示されているかを確認します。

使用方法

警告



禁止



指示

- 電力会社の電気配線には絶対に接続しないでください。守らないと火災・感電・人身事故の原因となるほか、本機および接続された電気製品の故障につながるおそれがあります。

- コンセントにほこり、水分、汚れが付着している場合は、必ず取り除いてから使用してください。
- 接続する電気製品は、必ず本機の定格電圧および電流範囲内でご使用ください。

注意



禁止



指示

- 本機は接続された電気製品の負荷に応じて電圧が変動するため、電圧変化に敏感な製品は使用しないでください。
- 欠陥のある電気製品（コード・プラグ破損、接続部のゆるみ等）は接続しないでください。故障・感電・火災の原因となります。
- 電気製品の合計負荷（交流・直流の合計）が発電機の定格出力を超えないようにしてください。定格出力を超える過負荷状態での使用は、発電機の故障や損傷の原因となります。
- 接続する電気製品のスイッチが切れていることを確認してください。電気製品のスイッチが入っていると、電気製品が急に動作し、思わぬケガや事故を引き起こす原因となります。

- 接続の可否が不明な場合は、必ず電気製品会社にご相談ください。
- 電気工具類・汎用モーター類の一部では、起動電流が大きく、取り出し可能範囲内の出力でも使用できない場合があります。このような場合は、必ず電気機器会社にご相談ください。
- 医療機器の使用については、必ず事前に医療機器メーカー・医師・病院等にご確認のうえご使用ください。
- 延長コードを使用する場合、延長コードの断面積 1.5mm^2 のときは60m 以下、 2.5mm^2 のときは100m 以下のものを使用してください。接続する電気製品の仕様を確認してください。

電気の取り出し方

交流電源 AC (100V)

①アース端子の接続

接続する電気製品がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地（アース）してください。

②発電機の運転

「エンジンのかけ方」に従って発電機を始動します。

（P31~33参照）



③デジタルディスプレイ

始動後、デジタルディスプレイの画面が点灯し、『出力』/『運転時間』/『電圧・周波数』の情報が表示されます。

（P16~17「インターフェースの紹介」参照）

使用方法

- ④周波数切替

周波数は、使用する電気製品の周波数と一致していることを確認してください。

※調整後、必ず機械を停止し、再始動してください。

(P18「周波数切替」参照)



- ⑤電気製品の接続

接続する電気製品のスイッチが切れていることを確認し、電気製品のプラグを確実にACコンセントに差し込みます。

※消費電流の合計が上限(20A)を超えないようにしてください。



- ⑥電気製品の使用

電気製品のスイッチを入れます。

合計出力および合計電流は、リアルタイムで更新され、デジタルディスプレイに表示されます。

※詳しくは、デジタルディスプレイの「電力使用目安」説明(P16)をご参照ください。

直流電源DC (シガーソケット12V)

- ①発電機の運転

「エンジンのかけ方」に従って発電機を始動します。

(P31~33参照)

- ②車載用電気製品の接続

接続する車載用電気製品のスイッチが切れていることを確認し、シガーソケットへ車載用電気製品のプラグを確実に差し込みます。

- ③車載用電気製品の使用

電気製品のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷)で使用する場合は、合計出力および合計電流は、リアルタイムで更新され、デジタルディスプレイに表示されます。

⚠ 注意

車バッテリーに充電する場合

- シガーソケットに専用のバッテリー充電用コードを接続します。
- バッテリーにワニグリップを接続します。

※赤=「+」極、黒=「-」極 です。極性を間違えないようご注意ください。

- 充電時間はバッテリーの放電状態により異なります。比重計でバッテリー液の比重を確認ながら充電してください。



※梱包品ではありません

使用方法

直流電源DC (USB-A/TYPE-C)

①発電機の運転

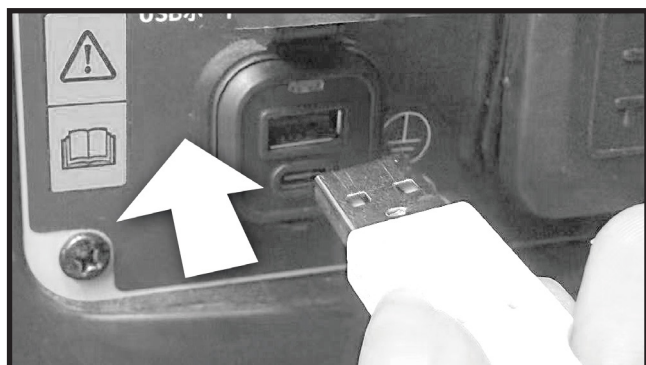
「エンジンのかけ方」に従って発電機を始動します。

(P31~33参照)

②デジタルディスプレイ画面の表示

始動後、デジタルディスプレイの画面が点灯し、『出力』『運転時間』『電圧・周波数』の情報が表示されます。

(P16~17「インターフェースの紹介」参照)



③USB出力端子の使用

電気製品のUSB-A/TYPE-Cプラグを対応の出力端子に差し込みます。

並列運転

①周波数切替

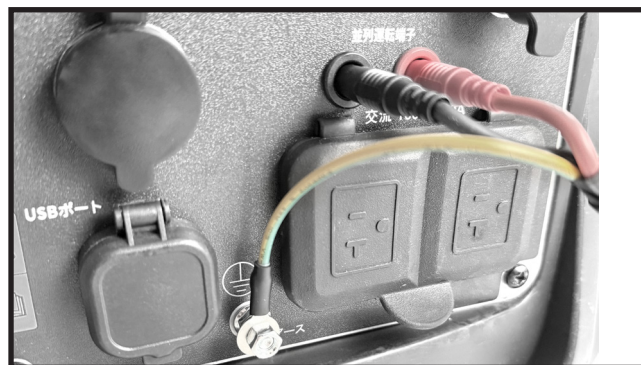
「エンジンのかけ方」に従って発電機を始動します。

(P31~33参照)

並列運転の発電機周波数と一致にして調整します。

(P18「周波数切替」参照)

※調整後、必ず機械を停止してください。



②並列運転の発電機の接続

並列運転コード(別売り)を使用し、それぞれの発電機の並列運転端子に接続します。アース端子にはアース線を確実に接続してください。

③発電機の再始動

「エンジンのかけ方」に従って発電機を始動します。

(P31~33参照)

④電気製品の接続

電気製品のスイッチが切れていることを確認し、並列運転コードのコンセントに電気製品のプラグを確実に差し込みます。

⚠ 注意

- 指定された発電機(XYG1200i-BT/XYG2200i-BD)以外、絶対に並列接続しないでください。
- 並列運転コードは、必ずエンジン始動前に接続し、エンジン停止後に取り外してください。

使用方法

発電機エンジンの止め方と後片付け

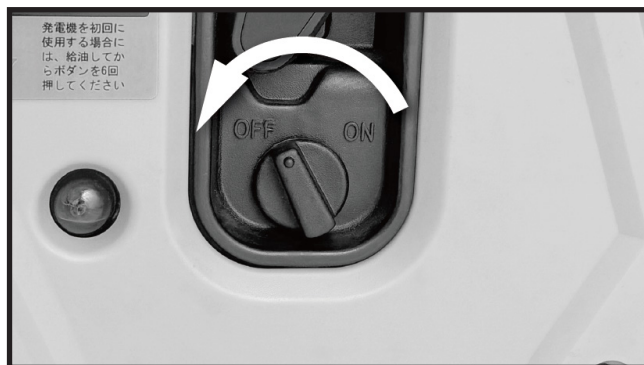
エンジンの止め方

①電気製品のスイッチを切って、電気製品のプラグをコンセントから抜きます。

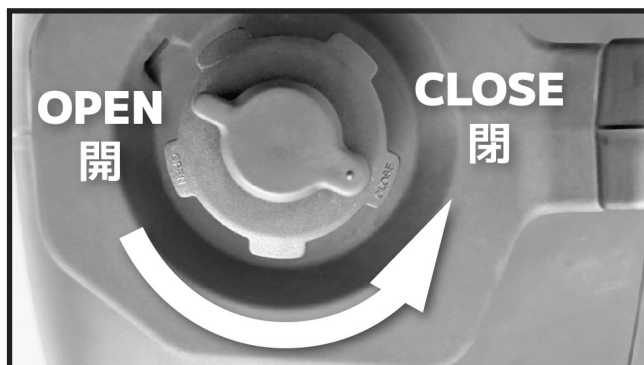


②パネルの「運転スイッチ」を「切」の位置にして、エンジンを停止します。

ガソリンの場合



③ガソリンコックを「OFF」にします。

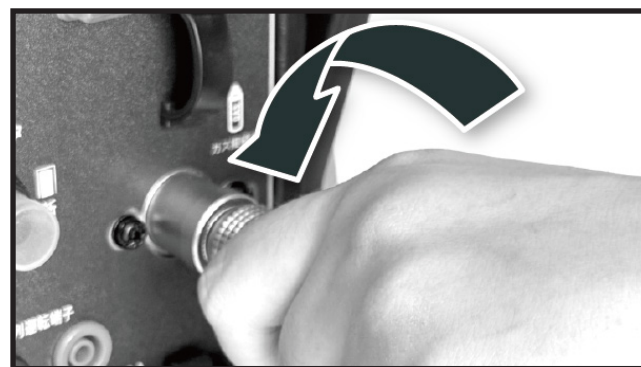


④燃料タンクキャップつまみを「CLOSE(閉)」の位置にします。

LPG ガスの場合



③LPガスボンベのガス栓と調整器のコックと容器のバルブを全部閉めます。(詳しくはLPガス会社にご相談ください。)



④外付け用ソケットを発電機から反時計回り取り外します。

⑤LPGボンベの片付け

・ LPガスの場合

容器は平らな場所、かつ上から物が落ちる危険のない場所に設置します。

・ カセットボンベの場合

容器キャップを取り外します。

⚠ 注意

- ・ 使用後、必ずLPGボンベを取り外してください。(使用中や使用直後はLPGボンベやその周辺が熱くなっている場合があります。十分冷めたことを確認してから取り外します。)
- ・ 直射日光を避け、火気の無いところに置いてください。

保守と点検

定期点検表

**警告**

- 点検整備作業をする時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いいたします。
- すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。各部より油漏れがないか確認してください。
- 作業はエンジンが完全に冷えてから行ってください。

- 交換する部品は当社の指定する部品以外のもを使用しないでください。
- 業務用途などで本機を使用する場合、通常よりも短い周期でのメンテナンスが必要となり、急な故障や保証できないトラブルが発生する可能性があります。
- 作業は平らで安全な場所で行ってください。

対 象	点 検 項 目	運転前の点検	初回の1ヶ月後又は 20時間運転	3ヶ月毎又は 50時間運転毎	6ヶ月毎又は 100時間運転毎	1年毎又は 300時間運転毎
燃 料	ガソリン量、漏れ	●				
燃 料 タ ン ク ス ト レ ー ナ ー	汚れ、詰まりの 点検				●	
燃 料 配 管 部	亀裂、損傷の確認	●				
	交換					●
エ ン ジ ン オ イ ル	量の点検	●				
	交換		●			
エ ア ク リ ー ナ ー	清掃	●				
	交換			●		●
点 火 ブ ラ グ	清掃				●	
	交換					●
排 気 口	清掃				●	
外 装	取り付けボルトのゆるみ確認			●		

- ①点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のいずれか早い方で実施してください。
- ②ホコリの多い環境でご使用の場合は、エアクリーナーの清掃を10時間運転毎、または1日1回を行ってください。
- ③安全に作業を行うため、メンテナンスは、適切な工具および整備技術を必要とします。
- ④点検表示時間を超過した場合は、速やかに点検を実施してください。
- ⑤部品に傷や亀裂がある場合は、交換してください。
- ⑥非常用電源等として常用せず、緊急時の使用が想定される場合は、月1回を目安に試運転を実施する。燃料およびエンジンオイルは長期保管で劣化し、エンジンがかかりにくくなり、不調など故障の原因となります。

保守と点検

点検と整備

⚠ 警告

🚫 禁止

- LPGガスを取り外した後も、本機内には微量のガス（燃料）が残っています。保管、運搬、点検、整備を行うには、屋内や換気の悪い場所では絶対に行わないでください。
- エアクリーナーの交換は、エレメントスポンジ以外の部品を使用しないでください。
- 本機を水洗いしないでください。

❗ 指示

- 点検整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。
- エンジンオイルは時間の経過とともに自然劣化します。定期点検表（38ページ参照）に従い、定期的に交換してください。
- LPGガスの接続のゴム部品も自然劣化するため、約7年が経過したものは使用せず、新しいのをご用意ください。

エンジンオイルの交換

※事前に排出されるエンジンオイルを受けるための容器を用意してください。

※エンジンオイルが汚れていると、エンジンの寿命を著しく縮める原因となります。定期的に点検・交換を行い、適正なオイル量を維持してください。

※エンジンオイルは使用しなくても自然に劣化します。ページ38「定期点検表」に従って定期的に点検・交換を行ってください。

※低温時など、エンジンオイルが完全に冷えていて排出しにくい場合は、エンジンを2～3分間暖機運転してから停止してください。オイルが少し温まり、排出しやすくなります。

⚠ 注意

- SE級以上のオイルを使用してください。エンジンが焼き付き、故障の原因となります。
- 指定外のオイルを使用したことによるエンジンの焼き付きは保証の対象外です。

推奨オイル	4サイクル用エンジンオイル SAE10W-30/SAE10W-40API分類SE級以上
オイル容量	0.52L

温度 (°C)	推奨粘度
-20 ~ 40	10W-30
-20 ~ 55	10W-40

※使用地域の平均外気温が図の適用温度範囲内であれば、図示粘度以外でも、API規格（同等規格）に適合する4サイクルエンジンオイルを使用できます。粘度は使用環境温度に応じて選定してください。

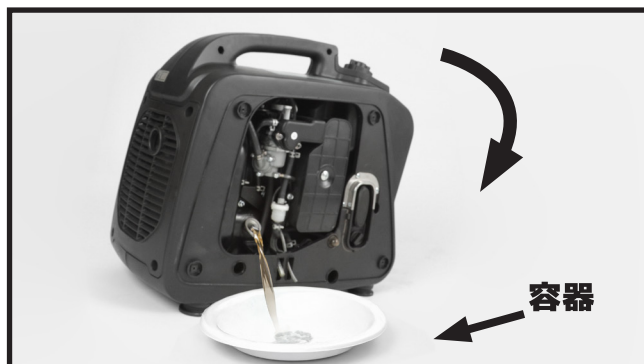
①左側のカバーのネジ（4か所）をゆるめ、手前に引いてカバーを取り外します。
※ネジやカバーなどを無くさないようにご注意ください。

XYG2200i-BD | 39

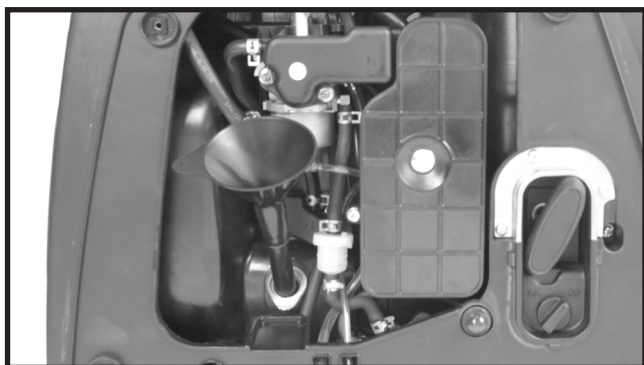
保守と点検



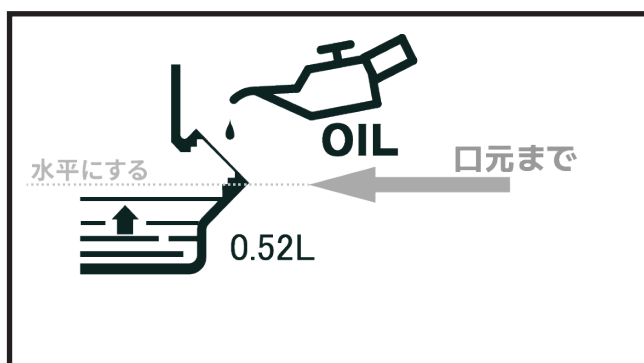
②オイル給油キャップ(オイルゲージ)を外してください。



③発電機本体を傾斜させ、エンジンオイルを排出します。
※排出完了後、オイルが抜き切れていることを確認します。



④本機を水平に保持し、付属のじょうごで新しいエンジンオイルを規定量(注入口の口元まで)給油します。



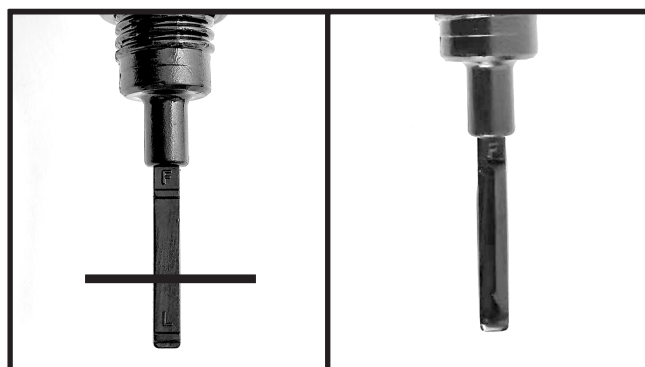
※規定量以上に給油しないでください。

※【エンジンオイル量が超過の場合】:

入れすぎの状態では始動すると、エンジンが停止する、白煙が出る、リコイルスターターが引けないなど、不調の原因となります。

※【エンジンオイル量が不足の場合】:

エンジンがかからない、エンジンが焼き付くなどのトラブルにつながる可能性があります。



⑤オイル量がオイルゲージの半分以下の場合、オイル不足の可能性もあります。



⑥オイル給油キャップを確実に取り付けます。カバーを取り付け、固定ねじを締め付けます。

⚠ 注意

- オイルの廃液は、法令(公害防止条例)に従って適切に処理します。不明な場合はオイルの購入店にご相談ください。
- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

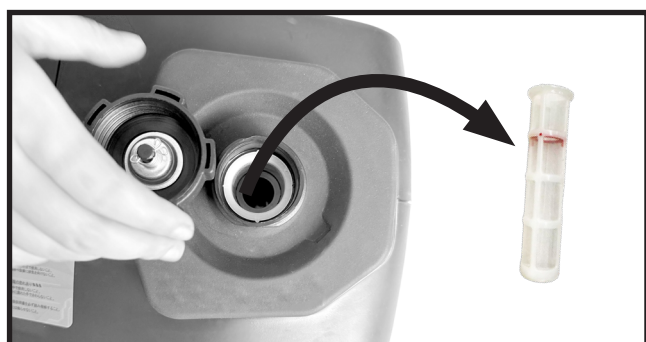
保守と点検

ガソリンの抜き取り

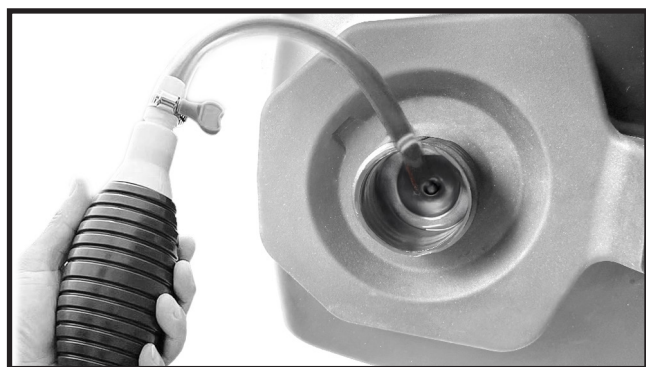
※排出したガソリンを受けるため、事前に耐油性容器を用意してください。

※ガソリンは揮発により自然劣化します。目安として30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。

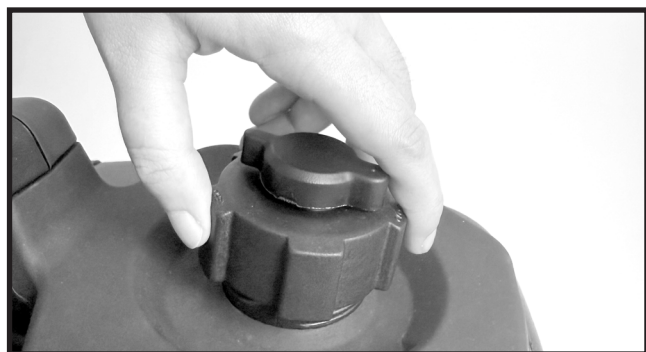
燃料タンクからの抜き取り



①燃料タンクキャップを開け、ストレーナーを取り出します。



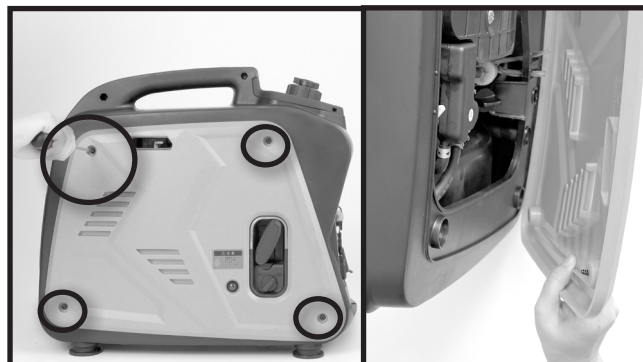
②手動式ガソリン用ポンプ(市販品)を使用して燃料を抜き取ります。(電動ポンプは使用しないでください。)



③タンク内の燃料が完全に排出されたことを確認し、ストレーナーを取り付け、燃料タンクキャップを確実に締めます。

キャブレターからの抜き取り

※燃料タンクを空にしても、キャブレター(気化器)内部に燃料(廃ガソリン)が残留する場合があります。保管・再使用時の始動不良や不調を防ぐため、必要に応じてキャブレター内の燃料も抜き取り、空にしてください。



①左側のカバーのネジ(4か所)をゆるめ、手前に引いてカバーを取り外します。

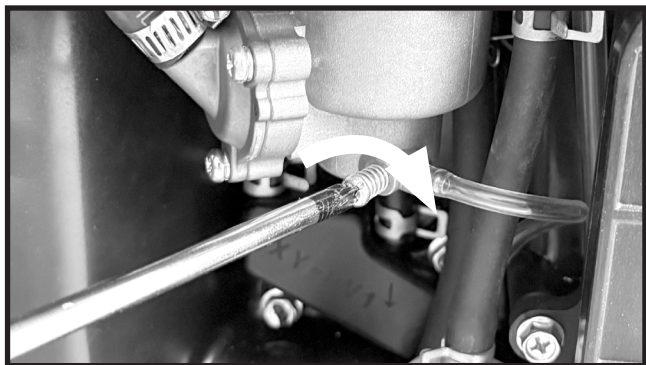


②ドライバーでキャブレター(気化器)下部のネジをゆるめます。※完全に取り外さないでください。



③本機下部にある廃油排出用パイプから自動的にガソリンが排出されます。ので、事前に用意した耐油性容器でガソリンを受け取ります。

保守と点検



④排出が完了したら、ドライバーでネジをしっかり締め直してください。カバーを取り付けます。

※ 排出後、ホースに漏れがないかを必ず点検してください。

⚠ 注意

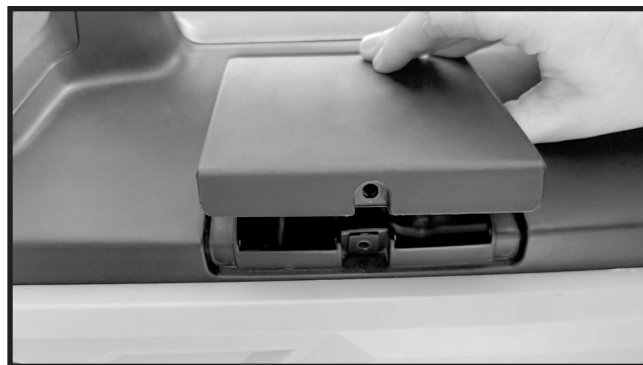
- 作業は必ずエンジンを停止し、完全に冷えた状態で行ってください。エンジン停止直後は各部が高温になっており、やけどの危険があります。
- 作業中は火気厳禁です。近くでタバコを吸ったり、火花や静電気を発生させないでください。
- 電動式ポンプは使用しないで、引火の原因となります。
- 抜き取った廃ガソリンの処理は環境保護のため法令に従い適切に処理してください。

点火プラグの点検・交換

※点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗していたりすると、完全な点火が飛ばず、エンジンの始動不良や不調の原因となります。点火プラグは徐々に劣化するため、定期的を外して点検を行ってください。

指定
点火プラグ

TORCH:A5RTC

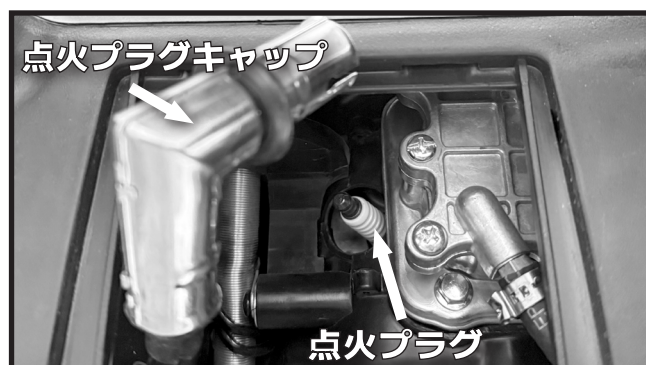


①点火プラグメンテナンスカバーのネジ(1か所)をゆるめ、カバーを取り外します。

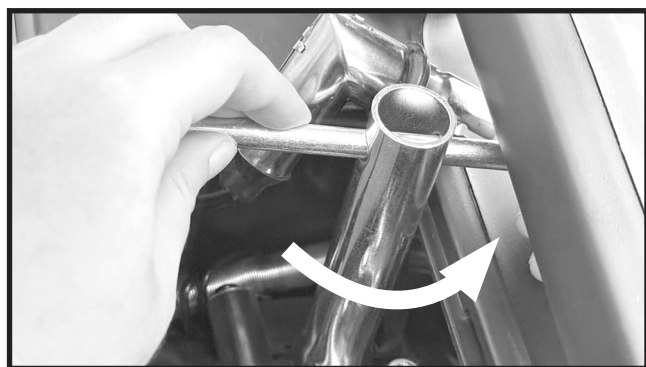


※点火プラグメンテナンスカバーを外したら、図を示したように点火プラグキャップが確認できます。

保守と点検



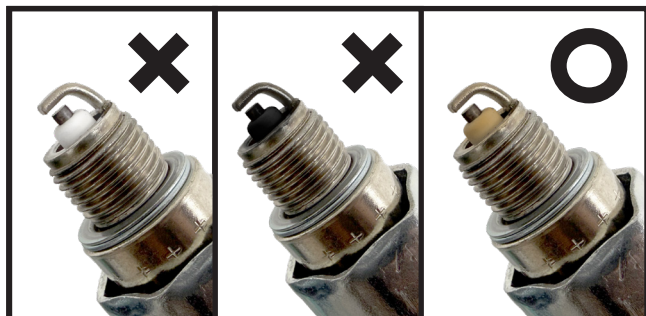
② 点火プラグキャップを外します。



③ 付属のプラグレンチハンドルと点火プラグレンチを組み合わせ、点火プラグを反時計回りに回して取り外します。※¹※²



④ 点火プラグ電極部が濡れている場合や汚れている場合は、真鍮ブラシ(市販品)などで清掃します。



⑤ 電極付近が黒くなったり白く焼けている場合は、エアクリナーのエレメントを清掃してください。

(P44「エアクリナーの清掃」参照)

※通常はキツネ色(茶色)に焼けます。



⑥ 電極のすき間を確認し、上記寸法になっていない場合は調整します。

※点火プラグの清掃やすき間調整をしてもエンジンがかからない場合は、新しいプラグに交換してください。

⑦ 電極部分を下にして、点火プラグを元の場所に慎重にねじ込みます。プラグレンチをセットし、点火プラグを確実に締めます。

⑧ 点火プラグメンテナンスカバーを取り付けます。

⚠ 注意

- 故障の原因となるため、指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- ヤケドを防ぐため、作業はエンジンが十分に冷えた状態で行ってください。
- 点火プラグを脱着する際は、碍子(がいし/白い陶器部分)を破損しないよう十分にご注意ください。碍子が損傷すると、電気が漏れて火災や故障の原因となります。※¹
- 点火プラグを外す際は、最初に強い力が必要です。ケガしたりや機器を倒したりしないようご注意ください。※²

保守と点検

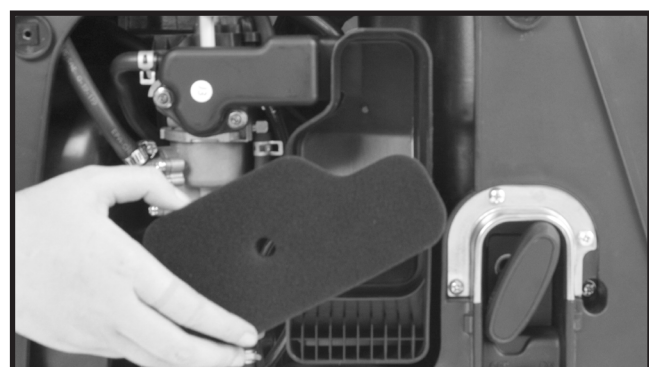
エアクリーナーの清掃

※エアクリーナーが汚れて目詰まりすると、出力の低下や燃料消費量の増加につながるため、定期的に清掃を行ってください。特に、ほこりの多い環境で使用する場合は、10時間運転ごとまたは1日1回の清掃を行ってください。



①左側のカバーのネジ(4か所)をゆるめ、手前に引いてカバーを取り外します。

※ネジやカバーなどを無くさないようにご注意ください。

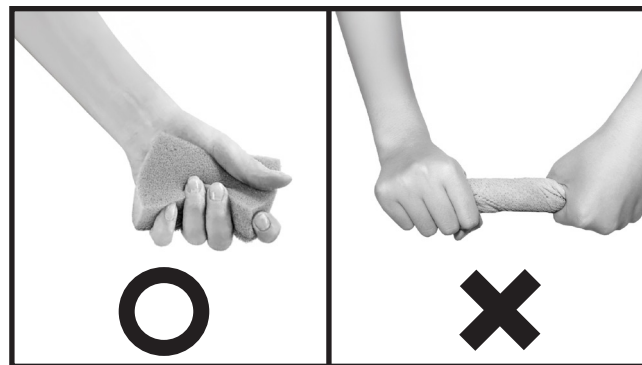


②ドライバーでエアクリーナーカバーのネジをゆるめ、カバーとエレメント(空気ろ過部)を取り外します。



③エレメントをエアフィルタークリーナーや灯油を使用して洗浄します。※¹

エレメントを傷めないように押し洗いしてください。



④洗浄後エレメントを片手で握って絞り、乾燥させます。※²

⑤エレメントをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼる。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。

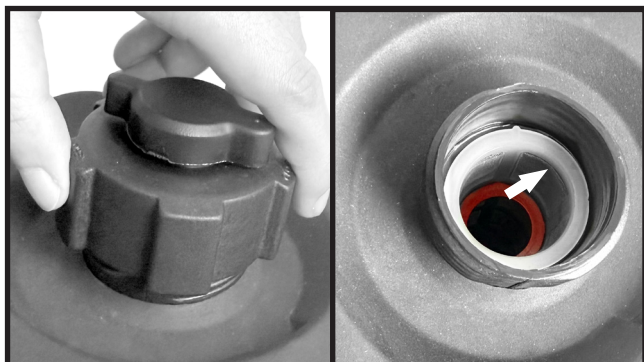
⑥エレメントをエアクリーナー本体にはめ込み、エアクリーナーカバーと本機の左側カバーを元の位置に戻し、ネジを締め付けます。

⚠ 注意

- 洗浄は換気の良い場所で行ってください。また、洗剤油は引火しやすいので、火種になるようなものを近づけないでください。※¹
- エレメントは強く絞らないでください。破損するおそれがあり、吸気性能の低下によりエンジン不調の原因となります。※²
- エレメント未装着の状態でエンジンを始動しないでください。異物の吸入により、ピストン・シリンダ等の摩耗・損傷を招くおそれがあります。

保守と点検

燃料タンクストレーナーの清掃



①燃料タンクキャップおよびストレーナーを取り外します。



②ガソリンを使用してストレーナーを丁寧に洗浄します。

③洗浄後、しっかり拭き取り、ストレーナーを燃料タンクに差し込みます。

④燃料タンクキャップを確実に取り付けてください。

排気口の清掃



①排気口カバーのネジ(4か所)をゆるめ、取り外します。



②真鍮ブラシ(市販品)を使用して排気口の汚れを取り除きます。

③排気口カバーを元通りに取り付けます。

⚠ 注意

- 作業中のやけどを防ぐため、必ずエンジンが完全に冷えてから作業を行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体、排気口、点火プラグなどが非常に高温になっており、触れると火傷の恐れがあります。

保守と点検

運搬する場合

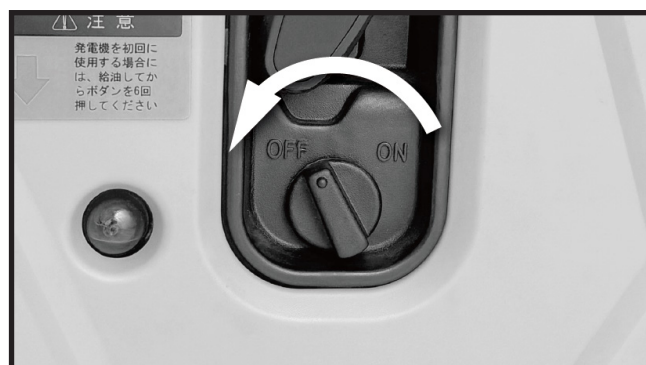
⚠ 警告

🚫 禁止

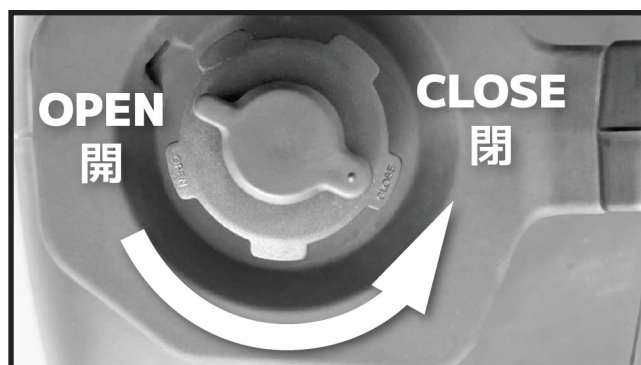
- 本機を運搬する際は、必ずエンジンが停止してください。守らない場合、火災や思わぬ事故の原因となります。
- 自動車内やトランクに積んだまま直射日光が当たる場所や高温になる場所に置かないでください。ガソリンが気化して引火するや、LPGガスが爆発し、死亡事故などの重大事故につながるおそれがあります。
- 車両に積載した状態での使用はしないでください。火災のおそれがあります。
- 発電機の上に重い物を置かないでください。

❗ 指示

- 本機が移動・横倒し・落下・破損などしないよう、キールバンド等でしっかりと固定してください。特に横倒し状態で運搬すると、エンジン始動不可や故障の原因となります。
- 本機を車のトランクに積んだまま長時間悪路を走行しないでください。
- 振動や衝撃により、燃料タンク内のガソリンがこぼれるおそれがあります。ガソリンを給油した状態で本機を運搬しないでください。火災のリスクを避けるため、予備のガソリンは消防法に指定された鉄製の携帯タンクで保管してください。



①ガソリンコックを「OFF」の位置にします。



③エンジンが十分に冷却されたことを確認後、燃料タンクキャップつまみを「CLOSE(閉)」にします。



②パネルの「運転スイッチ」を「切」の位置にして、エンジンを停止します。

④-1. 外付けソケットを取り外します。
(P37「発電機エンジンの止め方と後片付け」参照)

④-2. ガソリンを抜き取ります。
(P41「燃料タンクからの抜き取り」参照)

⑤本機が落下・転倒・破損しないよう、安定した場所に積載し、ロープ等でしっかりと固定してください。

保守と点検

長期保管（一時保管）

①運転スイッチを「切」にし、発電機（エンジン）を停止します。

②エンジン部・排気口部が十分に冷却されていることを確認します。

③-1. ガソリン燃料を抜き取ります。

（P41「燃料タンクからの抜き取り」参照）

※抜き取ったガソリンは、消防法に適合した金属製携行缶へ移し替え、適切に保管します。

③-2. 外付けソケットを取り外します。

（P37「発電機エンジンの止め方と後片付け」参照）

※取り外したガス缶は、各ガス缶の保管要領に従って保管してください。

④ガソリン燃料抜き取り完了後、発電機を始動し、無負荷運転（電気機器を接続しない状態）を行います。

（P31～32「エンジンのかけ方（ガソリンの場合）」参照）

※燃料タンク内の残燃料を消費し終わると、エンジンは自動停止します。停止するまでの時間は、ガソリン残量により異なります。

⑤運転スイッチを「切」にし、発電機（エンジン）を停止します。

⑥発電機各部が十分に冷却されていることを確認してください。

⑦キャブレター内部に残留する燃料を抜き取ります。

（P41～42「キャブレターからの抜き取り」参照）

※キャブレター内のガソリンを抜かずに長時間放置すると、により始動不能や不調の原因となります。このステップは保管前の必須な手順です。

⑧ガソリンコックを「OFF」の位置にします。

⑨燃料タンクキャップつまみを「CLOSE（閉）」にします。

⑩エアクリーナーの清掃を行います。

（P44「エアクリーナーの清掃」参照）



⑪点火プラグを取り外し（P42～43「点火プラグの点検・交換」参照）、プラグ孔からエンジンオイルを約3～5mL注油します。

⑫リコイルスターターグリップを2～3回ゆっくりと引き、オイルを内部に行き渡らせた後、点火プラグを取り付けます。

⚠ 注意

リコイルスターターグリップは勢いよく引かないでください。プラグ孔からエンジンオイルが勢いよく噴き出す恐れがあります。

⑬リコイルスターターグリップを引き、重く感じる位置で停止させ、ゆっくり戻します。

⑭本機にカバーをかけ、室内の乾燥した換気の良い場所で保管してください。

⚠ 注意

一時保管の場合は、①～⑩まで行ってください。

保守と点検

※故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないで買い上げの販売店にお問い合わせください。

エンジンがかからない

考えられる原因	対処	参照ページ
LPGガスボンベが空になっている	LPGガスボンベを交換する/ ガソリン燃料を補給する	23~30
燃料が入っていない/エンジンの始動には足りない		
カセットボンベ(CB缶)の装着方向不適合	カセットボンベ(CB缶)を規定姿勢で保持する	27
オイル警告ランプ(赤)が点灯している → エンジンオイルが入っていない/量が少ない	エンジンオイルを給油する	19、21~22
運転スイッチが「切」になっている	スイッチを「入」にする	/
エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認する	31~33
リコイルスタータークリップの引き操作不足	クリップをすばやく強く引く	32
チョークレバーの位置調整	エンジンが温まっている場合や夏期はレバーを「運転」に、エンジンが冷えている場合や冬期はレバーを「始動/チョーク」に ※(「チョーク」でリコイルを4~6回操作しても始動しない場合: いったん「運転」に戻し、リコイルを2~3回再操作して再始動を試行。)	11、32~33
エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	44
点火プラグがかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	42~43
本機が傾いている	本機周辺を点検する、水平にする	/
規定範囲外のエンジンオイルの使用	正しいエンジンオイルまたは燃料を入れ替え (改善が行われない場合は修理)	21、41~42、 23~24
燃料によるエンジン不調		
外気温度が低い	使用推奨の温度範囲: 外気温5~40℃	/
排気口が詰まっている	排気口の清掃を行う	45
側面のカバーが開いてる	側面のカバーを取り付く	/

リコイルスタータークリップが引けない

考えられる原因	対処	参照ページ
エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して規定量を注入する	39~40
問題のある(外気温と適合ではない)エンジンオイルを使用する	指定のエンジンオイルを使用する	39
エンジンの焼き付き/内部に異物混入/ リコイルスターターの不具合	買い上げ販売店、または当社の「カスタマサービスセンター」へご連絡ください	/

故障と対処

エンジンが数分動いた後止まる

考えられる原因	対処	参照ページ
チョークレバーの位置調整	起動後、チョークレバーを「運転」の位置にする	32
外気温度が低く、暖気運転が足りない状態でECOモードに入れる	3~5分間の暖気運転を行う	/
複数の電気製品を使用するなど、急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	16
点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	42~43
本機が傾いている	本機周辺を点検する、水平にする	/

排気口（マフラー）から白煙が出る

考えられる原因	対処	参照ページ
初めての始動/エンジンが冷えた後の再始動	煙が薄く、すぐに消える場合は、水蒸気の可能性が高く、異常ではない	/
エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して規定量を注入する	39~40
指定以外のエンジンオイルを使用する	指定のエンジンオイルを使用する	39

電気が取り出せない

考えられる原因	対処	参照ページ
前回過負荷保護作動後、出力の復帰（リセット）操作を実施していない	「直流DCプロテクター」/「交流ACプロテクター」ボタンを押して出力を復帰させる	14
水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大きな電流が流れる電気製品を使用	エコモードを「切」にする	/
シートをかぶせている、または屋内で使用するにより本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または屋外で使用する	/

電気製品の出力が足りない

考えられる原因	対処	参照ページ
周波数が間違っている	正しい周波数に合わせる	18
電気製品が本機に適していない	ご使用の電気製品の接続可否を確認ください	/

故障と対処

ディスプレイの故障コード

※故障コードが表示された場合は、まずお客様ご自身で点検を行い、外部要因か機械内部の要因かを確認・判断してください。

※故障の内容が内部部品の不具合や交換を伴う場合は、専門的な知識と技術が必要です。むやみに分解や操作を行わず、必ず販売店または当社の「カスタマサービスセンター」にお問い合わせください。

※ご自身での判断や修理作業によって状態が悪化した場合、たとえ保証期間内であっても無償修理の対象外となる可能性があります。十分にご注意ください。

故障コード	第一位	第二位	第三位	第四位
1	1000	0100	0010	0001
2	2000	0200	0020	0002
3	/	0300	0030	0003
4	/	/	/	0004

故障原因

故障コード	第一位	第二位	第三位	第四位
1	電流異常	UVLO保護 低電圧誤動作防止	過速度異常	OCP 過電流保護機能
2	電圧異常	配電線の電圧 過電圧保護	瞬時電流検知異常	過負荷異常
3	/	配電線の電圧 低電圧保護	並列出力異常	IGBT温度過昇異常
4	/	/	/	電気回路ショート

※複数の数字を含む故障コード（例：「1020」「0014」など）が表示された場合は、必ず販売店、「カスタマサービスセンター」にご相談ください。

故障と対処

考えられた原因

故障コード	第一位	第二位	第三位	第四位
1	インバーターの故障	インバーター端子接続不良 モーターの詰まり	モーターの異常	接続負荷異常
2	インバーターの故障 外部回路の電圧異常	インバーター端子接続不良 モーターの詰まり キャブレターの不調	起動電流大きな電気製品使用 外部ショット	過負荷
3	／	インバーター故障 モーターの詰まり 電圧供給不足	出力周波数一致しない 電圧一致しない 相数一致しない	環境温度高い 通風不良場所の使用 側カバー開けたままの運転
4	／	／	／	外部配線のショート 外部端子の接続不良

対処

故障コード	第一位	第二位	第三位	第四位
1	インバーターの交換	インバーター配線の点検 モーターの点検・確認	モーターの交換	接続負荷の削減
2	インバーターの交換 外部配線の点検	インバーター配線の点検 モーターの点検・確認 キャブレターの清掃	起動電流低い電器の使用 ショット部の絶縁処置	接続負荷の削減
3	／	端子接続の確認 モーターの点検・確認 電源電圧の測定・点検	出力周波数一致にする XYG1200i-BTとXYG2200i-BD以外の発電機を並列しないでください。	環境温度5℃～40℃内使用 通風換気良い場所で使用 側カバー閉めて運転
4	／	／	／	配線の絶縁強化 外部端子再接続または交換

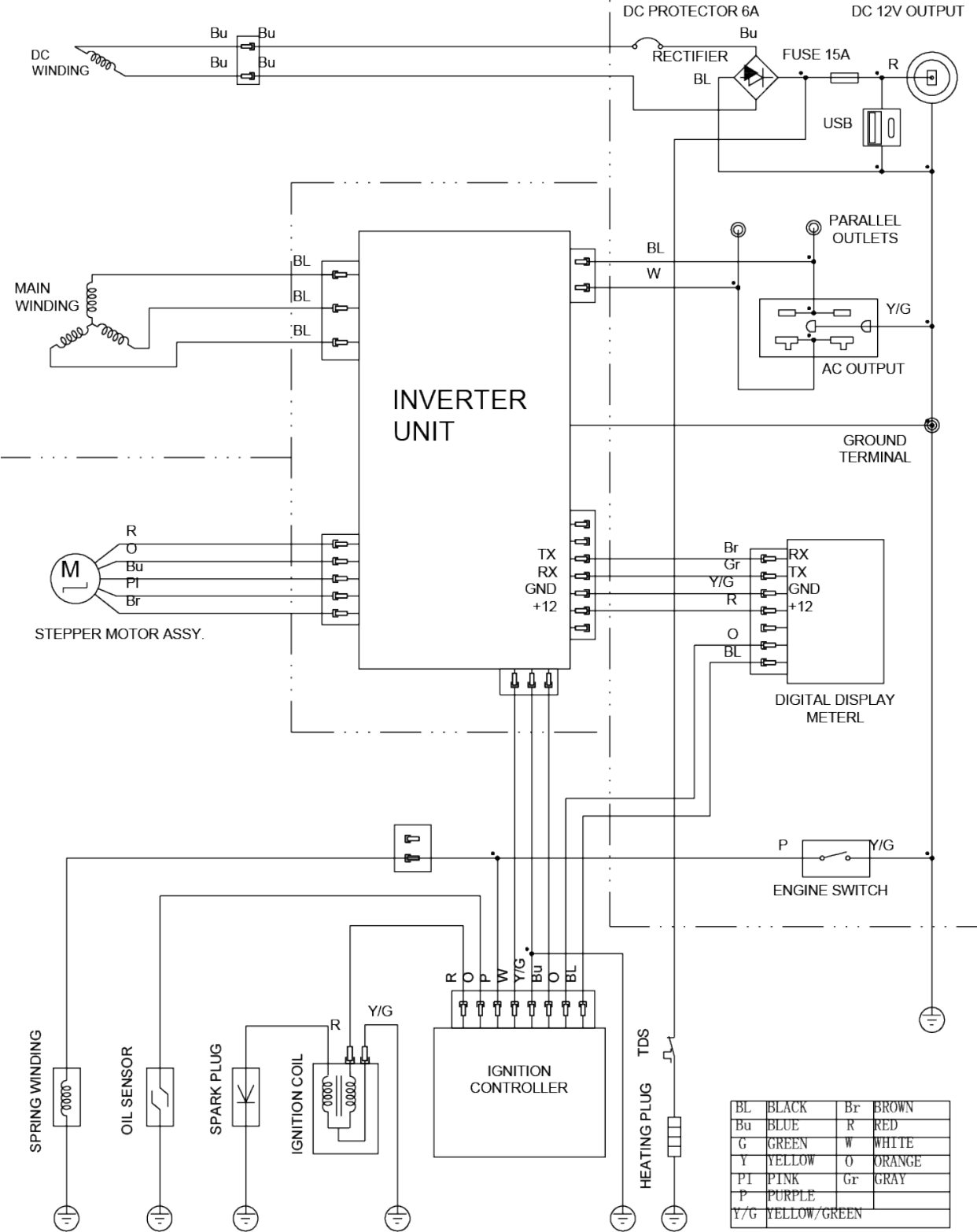
故障コード表示時の対処手順

- ①故障コードが表示された場合は、まず点検を行い、外部に起因する要因（接続機器・温度環境など）を取り除いてください。
- ②外部要因を除去した後、デジタルディスプレイの「M」ボタンを一回押すと、インバーター出力がリセットされ、通常の表示画面に戻ります。
- ③表示が通常に戻ったら、本機を再始動し、数分間運転状態を観察してください。その間に再び故障コードが表示されるかをご確認ください。
- ④故障コードが再表示された場合は、機器内部の異常が考えられますので、速やかに販売店または当社の「カスタマサービスセンター」までご連絡ください。

配線図

GENERATOR BLOCK

CONTROL PANEL BLOCK



ENGINE BLOCK

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

保 証 規 約

本規約は、弊社が日本国内で販売する該当商品（以下「本製品」といいます）に適用いたします。保証期間・保証内容の基本事項は保証書の記載に従います。なお、本保証は日本国内で使用される場合に限り有効です。

1. 保証期間

- 保証期間は、使用開始時期・使用期間にかかわらず、製品の受取日から1年間です。
- 保証期間を超過した場合は保証対象外となり、有償対応となります。
- 保証修理を行った場合でも、保証期間は延長されません。
- 製品の受取日より1ヶ月以内に初期不良が判明した場合は、送料を弊社負担として対応いたします。

2. 保証の基本方針

- 取扱説明書・注意事項に従った通常の使用状況において発生した、材料または製造上の不具合について、保証書および本規約に基づき対応いたします。
- 保証対応は、修理または弊社が相当と判断する代替対応（同等品部品への交換等）といたします。保証修理により取り外した部品は弊社の所有となります。
- お客様から弊社へ修理品をお送りいただく場合の往復送料は原則としてお客様のご負担となります。保証内の部品提供に伴う送料についても、お客様のご負担となります。
- 本規約の対象は、日本国内で使用し故障した本製品に限り、日本国外へ持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証修理適用外の事項

保証期間内であっても、次の場合は保証修理の対象外となる場合があります（有償修理の可否は、状態および部品供給状況により判断いたします）。

- <1> 指定外燃料・潤滑油・消耗品の使用、または弊社が認めていない部品・材料の使用に起因する不具合
- <2> 取扱説明書と異なる使用、保守整備の不備、または保管上の注意を怠ったことによる故障・損傷
- <3> 不適切な保守・点検・清掃・保管、または保管場所の不備による不具合
- <4> 一般と異なる使用場所や使用方法、または酷使によって生じた不具合
- <5> 指定された出力・運転時間等の限度を超える使用によって生じた不具合
- <6> 使用に伴う消耗、または経年変化による現象（退色、塗装割れ、腐食、錆、樹脂部品の破損・劣化等）
- <7> 落下、転倒、衝撃、加圧等による故障・損傷
- <8> 弊社または弊社が認めるサービス店以外で修理された本製品
- <9> お客様または第三者による修理、分解、改造、加工、部品装着に起因する不具合
- <10> 火災、地震、水害、落雷、台風その他天災地変、公害等による故障・損傷
- <11> 薬品、オイル、石はね、雨、雹、氷、塩分、煤煙、粉塵、砂、鳥害等の外部要因による故障・損傷
- <12> 異物混入、水没・浸水、腐食等による故障・損傷
- <13> 本製品が使用できなかったことにより生じた損失の補填（休業補償、営業損失、盗難、紛失等）

4. 保証の対象外となる費用

保証修理の対象であっても、次の費用はお客様のご負担となります。

- <1> 消耗部品（ゴム部品、皮部品、スポンジ類、バッテリー、点火プラグ、刃・先端部品等）の交換、修理および補充費用
- <2> 定期点検、清掃、調整、消耗部品の交換等のメンテナンス費用
- <3> 燃料、エンジンオイル等の補充・交換費用
- <4> 往復送料（弊社が別途負担を明示した場合を除きます）
- <5> 弊社指定外の窓口・販売店等での修理費用
- <6> 転売品・中古品・譲渡品等で、購入者の特定ができない場合
- <7> 保証書の提示がない場合、または必要事項の未記入・改ざんがある場合
- <8> 使用不能に伴う二次的損失（営業損失、休業補償、代替機レンタル費、宿泊費、交通費、通信費等）

5. 別扱い（対象外）となる部品等

弊社以外が取り付けした部品・付属品等は本保証の対象外であり、各部品メーカーの保証に従います。詳細はお買い上げの販売店へご相談ください。

6. 免責・責任の範囲

弊社の保証責任は、保証書および本規約に定める範囲での修理等に限定されます。弊社は、特別損害・間接損害・結果損害（逸失利益等）について責任を負いません。

7. 規約の変更

本規約は予告なく変更する場合があります。適用される規約は、原則として修理受付時点で弊社が提示する最新版といたします。

修理サービス規約

1. 修理をご依頼いただく前の確認事項

- 弊社では出荷前に動作点検を行っておりますため、製品にオイルや水分が残っている場合があります。また、輸送過程により軽微な傷・汚れが付着する場合があります。
- 修理をご依頼いただく前に、取扱説明書の「故障かな？と思ったら」をお読みいただき、故障かどうかをご確認ください。

2. 修理依頼品をお送りいただく際のご注意

- 弊社へ修理品をお送りいただく場合の往復送料は、お客様のご負担となります。
- 返送の際に**再梱包**が必要となりますので、**梱包材はお捨てにならないよう**お願いいたします。
- 輸送中のダメージや破損が生じないよう、十分に梱包してお送りください。不十分な梱包により輸送中の紛失・破損が生じたと弊社が判断した場合、修理の受付をお断りする場合があります。なお、輸送中の事故について弊社は責任を負いかねます。
- 保証書に必要な事項（ご住所、お名前、お買い上げ店、お買い上げ年月日等）をご記入のうえ、修理品に同梱してください。

3. 修理についての受付・手続き

- <1>修理は「メンテナンスセンター」への郵送または持込に限ります。出張修理お受けしていません。
- <2>修理をご希望の場合は、事前に弊社「カスタマーセンター」へご連絡ください。ご連絡なく郵送／お持込みされた場合は受付できず、受取拒否、または返送料金をお客様負担として返送いたします。
- <3>受付時に、保証書および購入日が確認できる書類（レシート／領収書／購入明細等）の提示をお願い、または症状確認のため不具合箇所の写真・動画の提示をお願いする場合があります。
- <4>安全上、燃料の取扱いは法令および運送会社の規定に従います。必要に応じて、発送前の準備をお願いする場合があります。
- <5>お見積りご連絡後に修理をキャンセルされる場合、返却品は預かり時の状態と異なる場合があります。
- <6>修理作業着手後の修理キャンセルはお受けできません。
- <7>修理品の返却は弊社指定の運送業者にて行い、返却先は日本国内に限ります。
- <8>北海道・沖縄・離島および一部山間部等の一部地域への返送（往復を含む）に伴う送料は、返送時期にかかわらずお客様のご負担となる場合があります。送料は**概ね3万円以上**となることがあり、製品のサイズ・重量および配送条件により変動します。当該地域への返送手配および送料のお支払いは、**お客様ご自身で行ってください。**

4. 修理の方法・部品の取扱い

- 修理は、部品交換または補修により行います。
- 修理により取り外した部品・交換した部品等は、原則として弊社の所有物となり、いかなる場合も返却いたしません。
- 修理の都合により、再生部品または改良部品を使用する場合があります。また、弊社判断で製品交換にて対応する場合があります。
- 仕様変更等により同一部品の供給が困難な場合は、同等品で対応する場合があります。なお、部品はアッセンブリー（組立品）での供給となる場合があります。
- 生産終了品等で部品供給が困難な場合、修理をお受けできない場合があります。
- 弊社の品質基準を上回るご要望には対応いたしかねます。
- 本製品の故障および修理に起因して生じた派生的損害について、弊社は責任を負いかねます。

カスタマーサービスセンター

修理に関するお問い合わせ



0120-907-689 (ナビダイヤル)

電話受付時間 | 平日10:00～12:00 13:30～17:30
(土日、祝日、会社休業日を除く)

※お電話番号をお確かめのうえ、おかけ間違いのないようお願いいたします。



@kareyou

対応時間 | 平日(月～金) 10:00～18:00
(土日、祝日、会社休業日を除く)



ライン用QRコード

※症状確認のため、不具合箇所の写真・動画のご提供をお願いする場合がございます。
スムーズな確認のため、LINEでのご連絡を推奨いたします。

製品に関するお問い合わせ



support@cyose.info

対応時間：平日10:00～18:00



(ナビダイヤル)
0800-300-1884

対応時間：平日10:00～12:00 13:30～17:30

(土日、祝日、会社休業日を除く)

お問い合わせ相談について

- ・ ご相談は、まず「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。
- ・ 症状・使用状況を伺い、お手続き方法をご案内させていただきます。
- ・ お問い合わせの際は、下記情報をご準備ください：
①型番 ②お買い上げ年月日 ③購入先 ④故障状況等
- ・ 型番は本製品の仕様ラベル、または「取扱説明書」表紙の左下に記載しています。
- ・ 製品・部品の購入に関するお問い合わせは、購入先販売店または「kareyou」の公式サイトへご相談ください。



<http://www.kareyou.jp>

匡正株式会社
KYOSEI CO.,Ltd

【メンテナンスセンター】
〒289-1126
千葉県八街市沖1248-1

※郵送修理/返品の前に事前連絡受付をお願いいたします。

保証書

「取扱説明書」等に従い、通常のご使用状況で万一不具合が発生した場合は、本書に記載の保証規約および修理サービス規約に基づき保証いたします。保証に関する詳細は保証規約に定めます。

本保証書は、本書に明記した保証期間および条件の範囲内で、以下のとおり無償の修理（以下「保証修理」といいます）を行うことをお約束するものです。保証期間経過後の修理・点検等は、本書記載の「お問い合わせ」またはお買い上げの販売店へご相談ください。

保証内容

- ・お買い上げいただいた当社製品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が認められた場合、本書に示す期間および保証規約の条件に従い保証修理いたします。
- ・保証期間は、お買い上げ日（お客様に製品をお渡しした日）から1年間です。

保証修理の受け方

- ・本書の「お買い上げ店」欄には、店印または販売店シールを押印／貼付してください。また、お買い上げ年月日が記入されていることをご確認ください。
- ・店印・販売店シールがない場合は、お買い上げ日が確認できるレシート／領収書のコピーを貼付してください。ECサイトでご購入の場合は、「ストア名」および「注文番号」をご記入のうえ、領収書／購入明細のコピーを貼付してください。
- ・保証修理をご希望の場合は、製品本体と本保証書をご用意のうえ、本書記載の「お問い合わせ先」またはお買い上げの販売店へお申し付けください。本書のご提示がない場合は、保証修理をお受けできない場合があります。
- ・販売店が独自に提供する保証・サービスは、当社の保証とは別扱いです。

機 種	インバーター発電機
型 番	XYG2200i-BD
保 証 期 間	お買い上げより1年間
※お買い上げ日	年 月 日

お 客 様

※	〒
ご 住 所	電話番号 ()
※お 名 前	フリガナ

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

※お買い上げ店

店印押印欄
店シール貼り付け欄

※店印・販売店シールがない場合は、購入時のレシート／領収書（コピー）を貼付してください。
※ECサイトでご購入の場合は、「ストア名」「注文番号」をご記入のうえ、領収書または購入明細（コピー）を貼付してください。

この保証書は再発行いたしませんので、お客様のお名前、ご住所および電話番号をお客様が保証書にご記入のうえ、大切に保管してください。購入を証明できるもの（レシート／領収書／購入明細等）をこの保証書と共に大切に保管してください。

匡正株式会社 KYOSEI CO.,Ltd



匡正株式会社